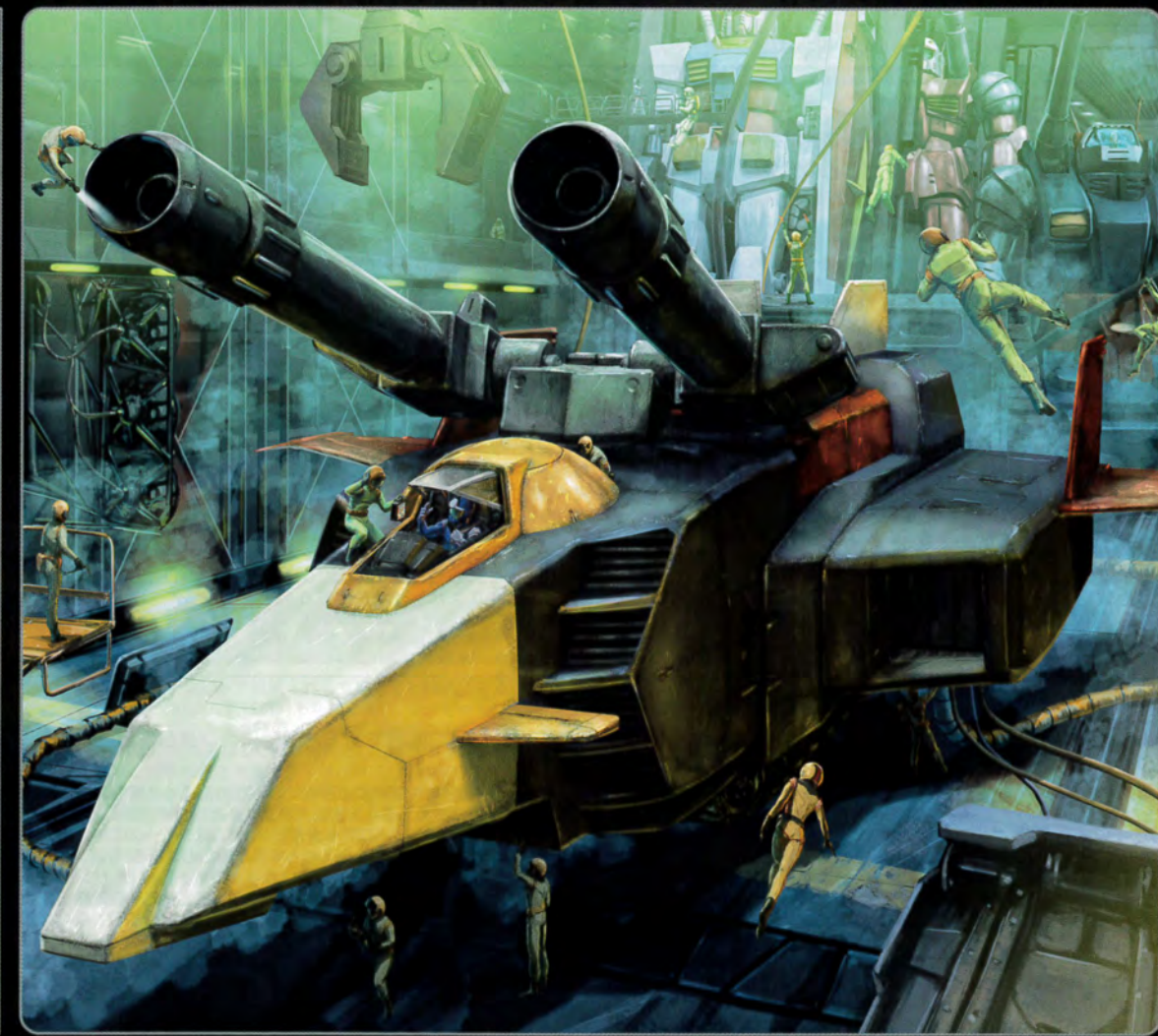




# G-FIGHTER

E.F.S.F. PROTOTYPE TACTICAL SUPPORT FIGHTER



1 / 100 scale MASTER GRADE G - FIGHTER



※写真はバンダイプラモデル アクションベース1グレー（別売り）を使用しています。



地球連邦軍 試作型戦術支援メカ  
Gファイター  
ガンダム Ver.2.0用 V作戦モデル  
1/100スケール マスターグレードモデル

## G-FIGHTER



地球連邦軍 試作型戦術支援メカ  
Gファイター  
ガンダム Ver.2.0用 V作戦モデル  
1/100スケール マスターグレードモデル

BANDAI 2009 MADE IN JAPAN ※写真の完成品は、塗装してあります。



0157465



## 地球連邦軍MS開発経緯

## 地球連邦軍の戦術とMSの運用方法

一年戦争以前の連邦軍の兵器体系は、基本的に旧世紀と大差ないものであった。実際にはメガ粒子砲の威力による砲艦外交を基軸とする大艦巨砲主義に傾いていたとさえ言える。それを覆したのがジオンのザクであった。

U.C.(宇宙世紀)0079年初頭の「ジオン独立戦争」勃発以降、地球連邦軍は兵器体系の抜本的な見直しを余儀なくされた。連邦軍が保有する兵器が公国軍のMS(モビルスーツ)に対抗し得なかった原因はいくつかあるが、根本的にはM(ミノフスキー)粒子散布による電子戦の無効化に加え、有視界戦闘への対応の遅れが致命的であった。さらに、宇宙空間における戦闘兵器の圧倒的な機動性の差があった。MSは、航空機的な機動力と戦闘車両的な打撃力、さらにはトーチカ並みの防御力を併せ持っていた。翻って連邦軍の主力兵器であったTIN-コッドやフライマンタ、61式戦車といった既存兵器は、そのカテゴリにおいてはそれぞれ当時の主力兵器ではあったが、電子戦の無効化によって目を塞がれ、20mもの巨体に踏み込まれては手の出しようがなかったのである。開戦を遡ること数年前、ジオニック社が開発したMSそのものは、連邦軍の反応を探るためであって、平和利用の作業機器としてジオン公国が自ら公開していた。デモ用の装甲に非武装で公開されたザク

の試験風景を見た連邦軍首脳部は、巨大ではあるが、そのためレーダーなどによって遠距離からでも捕捉されやすく、固定武装も一切持たない欠陥兵器であり、軍事的な脅威とはならないと判断した。また、物理学的なトビックスに過ぎなかったM粒子による電磁波阻害効果とこの人型作業機器を結び付けて考えるものはほとんど居なかったのも無理からぬことではあった。実際には、ジオン公国との実質的な断交を経て実施された「RX計画」によって、連邦軍におけるMSの基礎研究はある程度進展していたものの、戦争勃発以前にその必要性はほとんど顧みられる事はなかったし、開戦後に急速立案された「V作戦」にしても、最終的には、試作機を実験投入しつつ研究を進めると言う泥縄的なものであった。ただし、「V作戦」実施後も、「RX計画」の本質である「MSの開発とその対抗措置を含む基礎研究」は放棄された訳ではなく、軍属の一部や研究者個人によってそれぞれ継続されていたのである。

## G-FIGHTER開発経緯

U.C.0079年9月18日。ガンダムとWB(ホワイトベース)が実戦投入された。当初、連邦軍では、機密事項そのものであるガンダムとWBが敵の手に落ちる前に「処分」すべしとの意見が主流であったと言われている。

連邦軍が開発した試作MS「ガンダム」は、その装甲強度や武装の威力などのスペック面においてジオン公国軍のMSザクを圧倒していた。しかし、地上での運用において同様の問題も抱えていた。すなわち、移動能力の低さである。それを補うため、ガンダムを支援するサポートメカが開発されることとなった。それが「Gメカ(Gパーツ)」である。MS単独での移動能力の低さそのものは「RX計画」の発動当時から指摘されていたが、移送に関してはガンベリで対応していた。しかし、ガンベリーの移動速度は低く防御能力は脆弱で、さらには戦闘力をほとんど持たないことも指摘されていた。また、ガンダムの実戦投入によって、その他の様々な問題も浮き彫りになっていった。発動時点では万全と思われていたV作戦ではあったが、更なる改善の余地があることが判明していたのである。ガンダムとWB部隊が置かれている状況は、敵に鹵獲される危険性がある反面、実戦によるトラブルには陥ってない条件が揃っていた。「正規の職業軍人による運用ではない」という問題点はあったものの、現実的には援軍すら派遣されない孤立無援の状態であるにも関わらず、彼らは嚇かたる戦果を上げ続けている。であるならば、むしろこれを奇貨として活用すべきではないのか。連邦軍を実質的に掌するレビル将軍の強い意向によって、実験部隊としての性格を付与されたWB部隊は、「V作戦」を更に拡張した開発計画の一環として運用されることとなったのである。「V作戦」は、MSの開発量産と、その運用母艦となる強襲揚陸艦の開発建造を行い、同時にその戦術システムを含む兵器体系の創出をも視野に入れた空前絶後の大プロジェクトである。前年実施された「RX計画」によって集積された案を取捨選択し、有用なコンセプトを複数並立させていたのみならず、試作と量産の行程さえも同時に進行していたのである。開戦から数ヶ月で地上のおよそ1/3が公国軍によって

制圧された。特に重力下におけるMSの優位性は抜き出しており、連邦軍が大規模な反撃を企図するのであれば、MSの早期配備は必須条件であった。そのため、開発途上で先行試作機や互換性の極めて低いバリエーションなどもいくつが生み出され、少量量産されている。とは言っても、工業力以外のMS関連技術で連邦軍が明確に公国軍に勝っていたのはわずか2点のみ。装甲用の新素材とビーム兵器の小型化技術だけであり、それが決定的なアドバンテージではあったものの、熱核融合炉や駆動装置の性能などはほぼ同等だったと言われている。その中から、動員可能な企業や技術者を糾合し、RX計画によって導き出された理想値と平均値に基づいて、連邦軍のあるべきMSが模索された。V作戦には、その開発、量産のみならず、運用に伴う検証と進化、改良なども含まれていた。その一連の流れの中で、RX計画から取捨選択された要素をさらに検証し、実験データに基づいて「ガンダムのパワーアップ」を図った場合、最も実現性の高いユニットとして開発・配備されたのが「Gファイター(Gメカ)」なのである。

ちなみに「Gメカ」とは、それぞれのモジュールを差すのは勿論だが、G-MECHA=[G-Multiple Expansion of Changeable Armaments=(ガンダム用)多目的拡張可変武装(群)]を意味するという説もある。

RX-78-2 GUNDAM

## Gパーツとは

Gファイターは、オデッサ作戦に先立ってWB部隊への追加装備として配備された重戦闘機であると同時にガンダム専用のパワーアップパーツでもあった。WBには2機が配備され、様々な戦況に応じて運用された。

「Gパーツ」とは、「V作戦」の進展に伴う連邦軍のMS開発部局の一部が自発的に進めたいプロジェクト名で、G-P.A.R.T.S.=[G-Practical Advanced Research for Tactical System=(ガンダムを中核とする)戦術システムのための実用的先端研究]を意味していたと言われている。本来はパーツそのものではなく、F.S.W.S.(Full-armor System & Weapon System=装甲および武装強化システム)などと同様、MS=ガンダムの兵器としての発展を模索する包括的な研究全般を意味していた。ただし、実際に運用していたWB部隊においても本来の意味でそう呼ばれることはほとんど無かったようで、ましてや「部品」と同じ扱いであり、慣用語としてそれぞれのモジュールを指す意味で使われていた。ガンダム自体、上半身をA(Armament=武装)パーツ、下半身をB(Bottom=下部)パーツ、コア・ファイターをC(Core=核)パーツと呼んでおり、Gメカの前面をA(Armament=武装)パーツ、後面をB(Booster=推進力増強)パーツと呼ぶのはむしろ自然なことではあるだろう。

G-P.A.R.T.S.に携わっていた技術者たちは、「ガンダム」の更なる発展を志向していたが、連邦軍は「標準的なMSの早期適正配備」を最優先課題として要請していた。しかし、公国軍の新型MSの開発サイクルが急激に早まったこと、WB部隊の「四部隊(いわゆるモルモット)」としての運用が決定したことを受けて、MS単騎のパワーアップが検討されることとなった。ガンダムは、元々RX計画の枠を凝らしたハイエンドMSだったこともあり、C.F.V.(Core Fighter Variation)開発計画ともリンクする遠大な構想が当初から立案されていた。その一部を実現させたのが、Gメカを含む「ガンダム・システム」なのである。これは、コア・ブロックを最小単位とする機動兵器の総合体系であり、陸、海、空、宇宙の各環境においてMSの適応進化を図ると言うものであった。すでにザクの各種バリエーションが地球環境に適応拡散を果たしていたが、機体全体の改造や調整を必要とするバリエーションをその都度調達する時間的な余裕は連邦軍には無く、また、既存の航空機や戦闘車両との

置き換えや代替にMSを運用する際のノウハウの蓄積も必要であったため、MSが持つ能力の各要素そのものを分割して運用するという手法が採用された。強力な火力を持つ大型砲や無限軌道(キャタピラ)など、RXシリーズの他の機体の各要素がGメカに分散して装備されているのもそのためなのである。

Gメカは単独で「Gファイター」と呼ばれる戦闘機を構成し、ガンダムと連携したS.F.S.(Sub Flight System=補助飛行装置)として立体的な戦闘能力をガンダムに付与する。また、ガンダムの各パーツと相互に組み合わせる事で様々なモードに形態を変え、さらに多様な戦術に対応する事が可能である。最も多用されたのは、「Gアーマー」と呼ばれる形態である。GアーマーはGファイターを前後に分割してガンダムをはさみこむようにドッキングしたもので、ガンダムそのものを高速で前線に搬送する機能を持つほか、ガンダム本体のエネルギーゲインを援用することで、メガ粒子砲の連射やMA(モビル・アーマー)なみの高速戦闘が可能となる。かくしてガンダムは「パワーアップ」を達成し、続々と投入される公国軍の新型MSやMAに後れをとる事なく一年戦争を戦い抜くのである。



## G-MECHA 運用と目的

Operation and purpose

Gメカは、ガンダムの投入範囲と展開速度を向上させ、その途上で損耗を極力避けるべく開発された。また、投入環境の拡大のほか、運用領域の拡張も企図されていた。いわば、公国軍の適応拡散が受動的であったのに対し、連邦軍の模索は能動的であったと言い換えることもできる。「Gパーツ」はそれを象徴するガジェットなのだ。

## 【Gアーマー】

Gパーツおよびガンダム(+シールド)で構成される汎用航空/航海戦闘兵器。ガンダムを前線に投入するまでの時間短縮は無難なこと、「空中中の耐弾性の強化」を主目的としている。黒い三連星との戦闘において、ガンダムに乗ったことがあったセイラ・マスがパイロットとしてGアーマー形態で出撃。以後、オデッサ作戦の展開中に、ジオンのスパイを摘発したこともある。戦闘空域の強行偵察や哨戒任務で運用されるケースも多く、サイド6に向かう航路を哨戒中にMAブラウ・プロとの遭遇戦を展開する。ソロモン攻略戦においては、強力な弾幕とビーム・バリアを展開するMAビッグ・ザムに接近するため、GファイターからGアーマーへとドッキングし、2門のビーム砲とガンダムのビーム・ライフルを連射しつつ呐喊(とっかん)。GメカのAパーツは大破するもガンダムは接近に成功しビッグ・ザムを撃破している。



ビットから行うが、Gメカの cockpit での操作も可能である。Gブルー・イージーは、ガンダムの上半身とGメカAパーツのみで構成される陸戦兵器で、Gメカの cockpit での操作がデフォルトとなる。機動性は高くないが、機体各部の姿勢制御用のサブスラスターを使用することで、宇宙空間でも運用できない事はない。ペルファスト補給基地で、一旦出撃したガンダムがWBのドックでGブルに換装し、対ゴッグ戦でビーム・キャノンの威力を存分に発揮する。また、ジャブロー基地において、侵入してきた公国軍のMS部隊迎撃のため運用された。宇宙に出てからも、シャアのザンジバル級マダガスカルを迎撃すべく出撃するが、MAビッグロに苦戦を強いられる。



Gブルー

Gブルー・イージー

## 【Gスカイ/Gスカイ・イージー】

ガンダムの下半身とGメカBパーツおよびコア・ファイターからなる航空/航海兵器。Gスカイ・イージーは、GメカBパーツおよびコア・ファイターからなる航空/航海兵器である。ガンダムのパーツを使用せずに運用できるため戦術の選択肢が増えるほか、重量が軽減されるため空戦能力が向上する。高速かつ長時間の運用が可能だが、武装がコア・ファイターのバルカン砲とミサイルのみとなるため、攻撃力はさほど期待できない。オデッサ戦のさなか、ガンダムを破壊されたハヤトが運用した。ガンダムを乗せたままコアが発射した水爆ミサイルのインターセプトに成功する。その後も、ジャブローから出撃したWBを追うシャアのザンジバル級マダガスカルを迎撃すべく出撃する。



Gスカイ



Gスカイ・イージー

## 【ガンダム高機動型(ガンダム・スカイ)】

ガンダムにGメカBパーツを装着した状態。MS単体の場合に比べて推力が飛躍的に向上するため、MA(モビル・アーマー)的な高速戦闘に特化した運用が可能となる。公国軍が新たに投入したMAビッグロとの交戦により、その圧倒的な機動性に対抗する必要性を痛感したアムロによって試験的に採用された形態。対ザクレロ戦において実戦投入されるものの、加速性が飛躍的に向上する反面、運動性や方向転換のレスポンス低下が顕著であったため、実際に運用されたのは一度だけであった。「ガンダム・スカイ」の名はあくまで便宜上のものであり、事実上のアクシデントに過ぎないこのモードを規定する正式な呼称は存在しない。とはいえ、完全なマニュアルもまた存在せず、運用法も実戦によって徐々に確立されていた。すなわち、WB部隊が「モルモット」とされる所以である。技術者たちもまた、「MS」という新たな兵器の、いわんや、空前の工業製品の使い道を考えあぐねていたと言えるだろう。「コア・ブロックシステム」を発展的に拡張した「G-P.A.R.T.S.」構想によって開発されたモジュール群は、各部が軌道なまでに規格化されていた。RXシリーズ各機が互いのA、Bパーツを換装可能であった事を考え併せれば、「ガンダム・システム」の別の側面が垣間見えるだろう。



## 【Gブル/Gブルー・イージー】

ガンダムの上半身とGメカAパーツおよびコア・ファイターからなる陸戦兵器。通常、メガ粒子砲塔は180°回転させて使用する。操縦はコア・ブロックのcock

## G-FIGHTER スペックと武装

Spec and armaments

「Gファイター」は、Gパーツのみで構成される支援用重戦闘機である。ガンダムを積載しない分軽量であるため、空戦能力も非常に高い。cockpitは、コンピュータ以外はコア・ファイターのものとはほぼ同等の機能を持ち、操縦及び火器管制を行う。主翼はモードによって前進翼または後退翼として機能する。ガンダムやシールドなどの最終装甲と同等の構造強度と耐弾性をもち、大気内での変形時の急激な応力変化にもびくともしない。垂直翼との角度は固定されているが、運搬、収納の際などには翼端を機部ごと跳ね上げる事も可能である。

GアーマーはGファイターと違い、飛行特性が「航空機」よりむしろ「飛行体」に近くなるため、高速領域での機体制御のため機首の側面にカナードを装備している。ガンダムとのドッキングおよびベイルアウト時には、レーザーサーチャーと連動してAパーツ単独での姿勢制御も行う。キャタピラユニットは、主にGブル/Gブルー・イージー形態時に使用される陸戦用の機動装備で、Gメカの戦術的運用を可能とする。機能には全どの形態時に使用できるが、車輪自体にリアモーターが内装されており、必要に応じて軸輪のクラッチを外し、ランディングにも転用可能な構造となっている。車輪や履帯そのものは飛行時にはデッドウェイトとなるが、中央部のブームモジュールはエネルギー経路組み替えのガイドやGアーマー形態時の構造保持などには不可欠のユニットである。

Gパーツの4基のメイン・スラスターは熱核ハイブリッドエンジンであり、大気圏内でも宇宙空間でも高効率でプロペラントを燃焼することができる。このエンジンが生み出す膨大な推進力によって、Gアーマーはガンダムを積んだまま高速で移動することができる。逆に、Gアーマー形態

時には時速600km以下だと失速してしまう。ただし、本機は機体各所に設けられたサブスラスターによるV-TOL(垂直離着陸)やS-TOL(短距離離着陸)が可能であり、失速が墜落に直結する訳ではない。熱核ジェット/ロケットエンジンとプロペラントタンクおよび主翼が一体化された補助推進ユニットは、大気圏内では効率の良い熱核ジェットとして機能し、S.F.Sとして運用する際にはMSの「足がかり」となる。Gアーマー形態時など、それぞれのモードに応じて回転してポジションを変える。これによって空力重心が変わるため、本機の航空機としての性格も変わる。このユニットの内部は先端と後端の双方がインテークまたはスラスターとして機能するように設計されており、将来的にはAMBAC機能の付与も想定されていたようだ。主武装である2門のメガ粒子砲は、ガンダムのビーム・ライフルを上回る威力を持ち、ガンダムとドッキングする事でなる出力向上や砲撃間隔の短縮が可能となる。また、機首には各種弾頭を射出可能なランチャーサイロを装備しており、戦況に応じてミサイルや魚雷を発射する。ちなみに、Bパーツのドッキングシステムは、ガンダムの下半身を収納する際、上下どちらを向いても対応できるようにホールド及びコネク

トシステムが構成されている。

水平発射状態

対種撃撃状態



**注意**

**必ずお読みください**

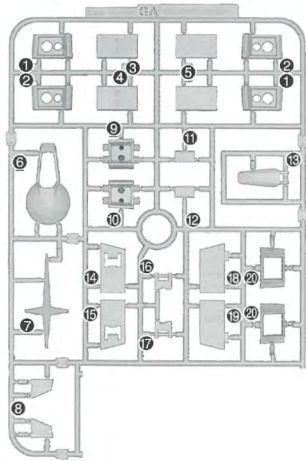
- この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

**〈組み立てる時の注意〉**

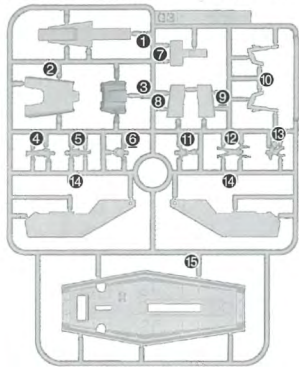
- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

**パーツリスト** (×印は使用しないパーツです。)

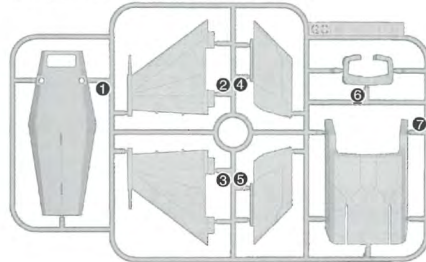
GAパーツ (スチロール樹脂: PS)



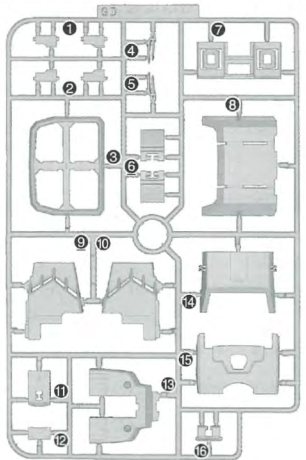
GBパーツ (スチロール樹脂: PS)



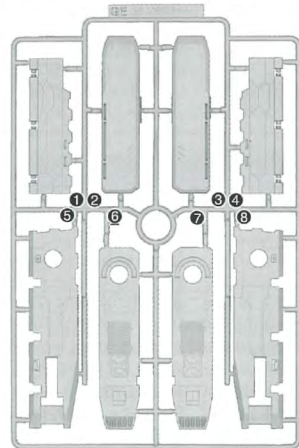
GCパーツ (スチロール樹脂: PS)



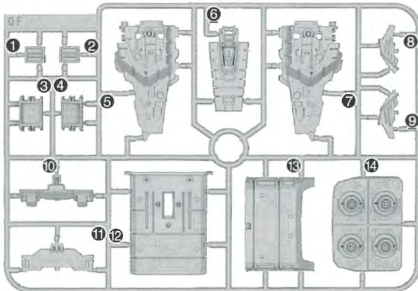
GDパーツ (スチロール樹脂: PS)



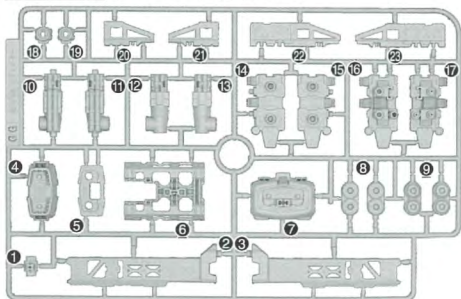
GEパーツ (スチロール樹脂: PS)



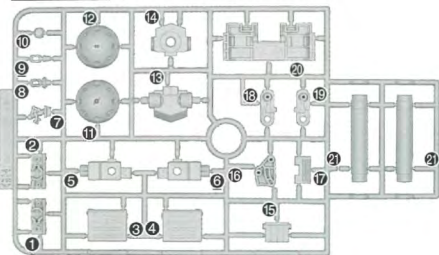
GFパーツ (スチロール樹脂: PS)



GGパーツ (スチロール樹脂: PS)

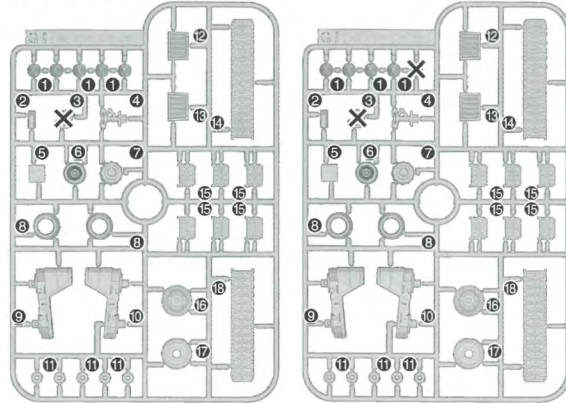


GHパーツ (スチロール樹脂: PS)

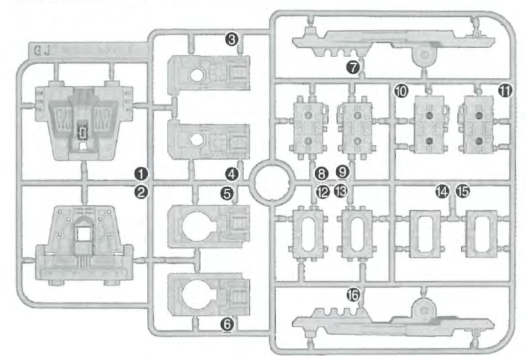


GJパーツ (×2)

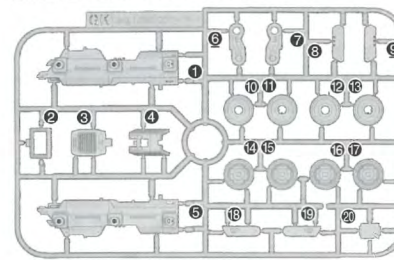
(スチロール樹脂: PS)



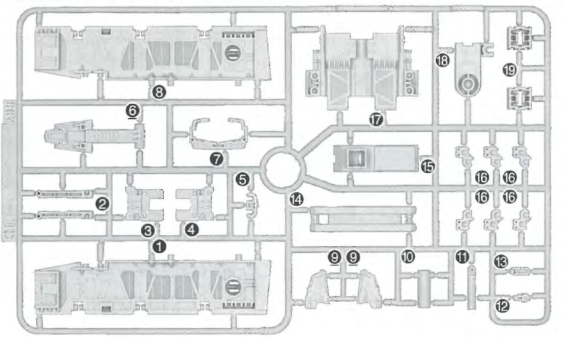
GJパーツ (スチロール樹脂: PS)



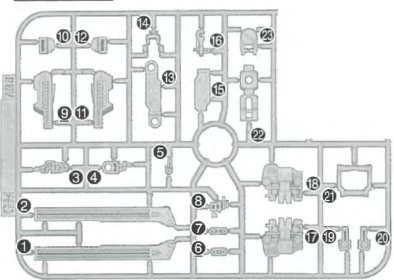
GKパーツ (スチロール樹脂: PS)



GLパーツ (ABS樹脂: ABS)

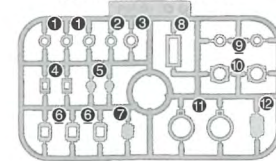


GMパーツ (ABS樹脂: ABS)



PC-203パーツ

(ポリエチレン: PE)



シール・デカールセット

マーキングシール...1枚  
ガンダムデカール...1枚

プラチェーンセット

プラチェーン.....1本  
(ポリアセタール: POM)  
チェーンつなぎ.....2個  
(ポリアセタール: POM)



# 組み立て前の基本説明

## 部品の向きに注意してください

※組み立て図中にVのついている部品は、形状や向きに注意して組み立ててください。

## ガンダムデカールの貼りかた

①ガンダムデカールは、転写するマークを保護シートと一緒にマークより大きめに切り出してください。

②保護シートをはがし、貼る位置を決めてから、すれないようにセロハンテープ等で固定し、マークの上からボールペン等の先端の丸い物でこすりつけて定着させます。

③シートを静かにはがし、デカールが定着していない部分が残った場合はシートを元に戻し、その部分を再度こすりつけます。

### 1 [Aパーツの組立]

#### <1> A PARTS

※とがっている方

PC2, GH19, GL12, GL13, GD16, GD11

### 1

#### <2>

パチン

GL12, GD11

## パーツの切り取りかた

①まず、パーツから少し離れた位置にニッパーの刃を入れて切り取ります。

②パーツを切り離して持ちやすくなったところでゲートの跡の処理に入ります。

③ニッパーの刃をパーツに密着させてゲートを切り取れば、きれいに仕上がります。

## 説明書をよく読んで完成させましょう

Aパーツ [A PARTS] 1~4

Bパーツ [B PARTS] 5~7

14 シールド [SHIELD]

18 ハイパー・ハンマー [HYPER HAMMER]

## 1 2 3 4 A PARTS



・組立 1・2・3・4 で使用するパーツ



### 1 [Aパーツの組立]

#### <1> A PARTS

※とがっている方

PC2, GH19, GL13, GD16

### 1

#### <2>

パチン

GL12, GD11

GH18

### 1

#### <3>

PC1, GK7, GK6, GK19, GM6, GK18

### 1

#### <4>

※きれいに切り取る。

GM3, GM1, GM2, GM4, GK2

GK2

### 1

#### <5>

GM5, GK19, GK18, GM6

### 1

#### <6>

GM7, GK9, GK8, GK1, GK19, GM6, PC7, PC6

GM8, GK5, PC7, PC6

PC7, GK5, PC6

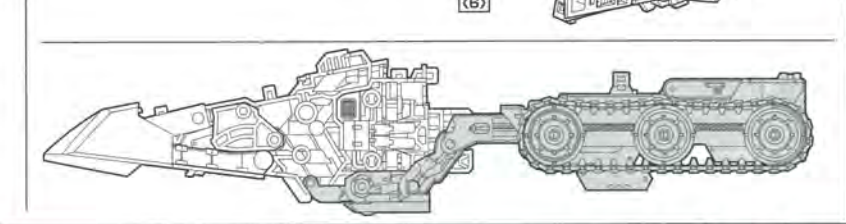
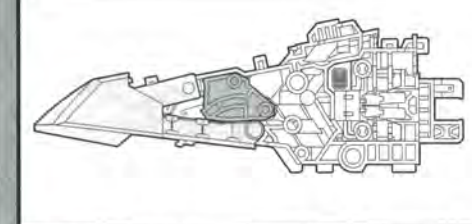
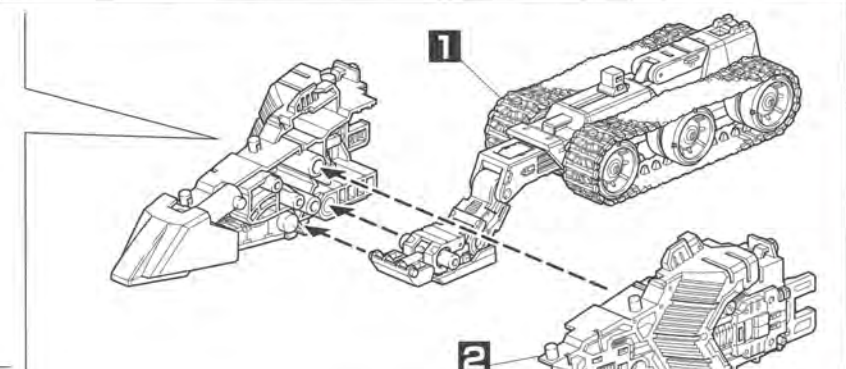
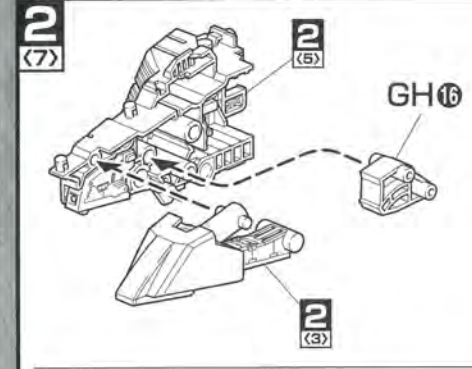
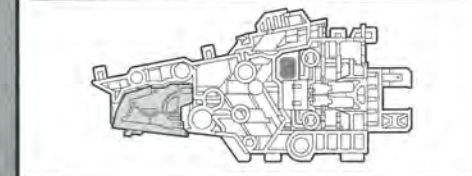
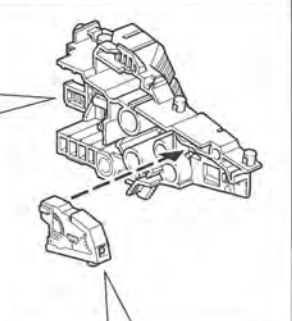
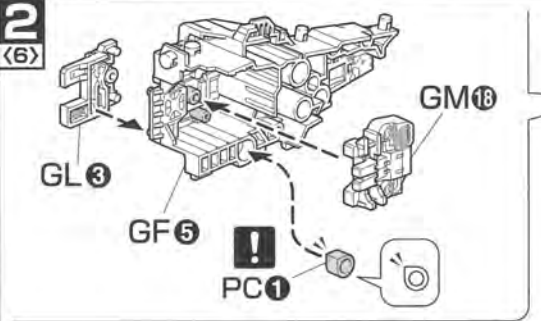
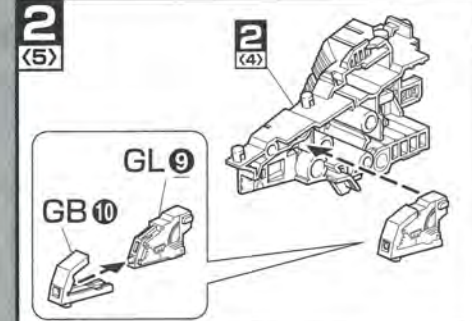
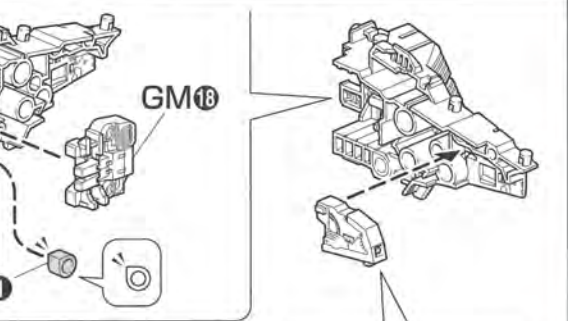
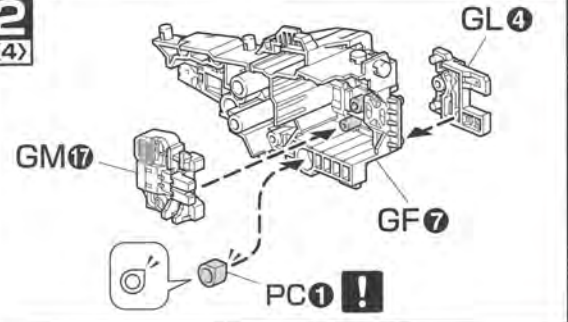
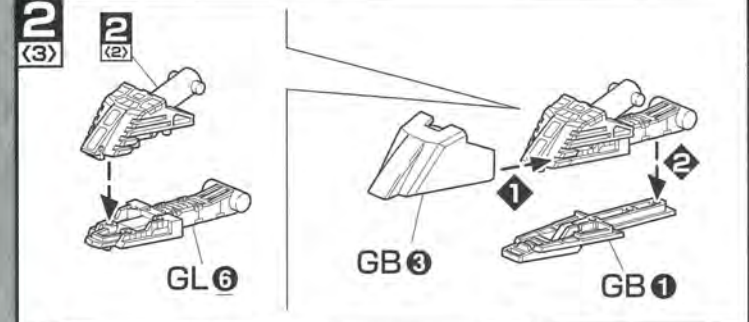
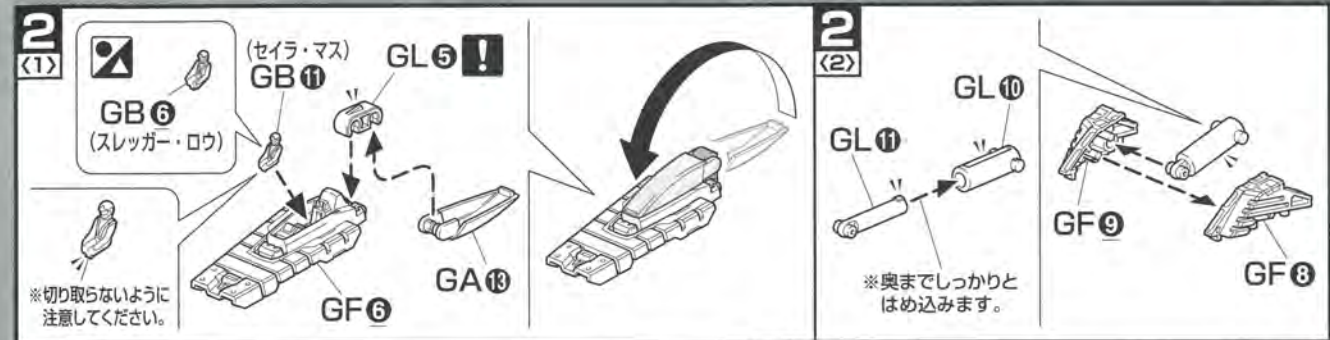
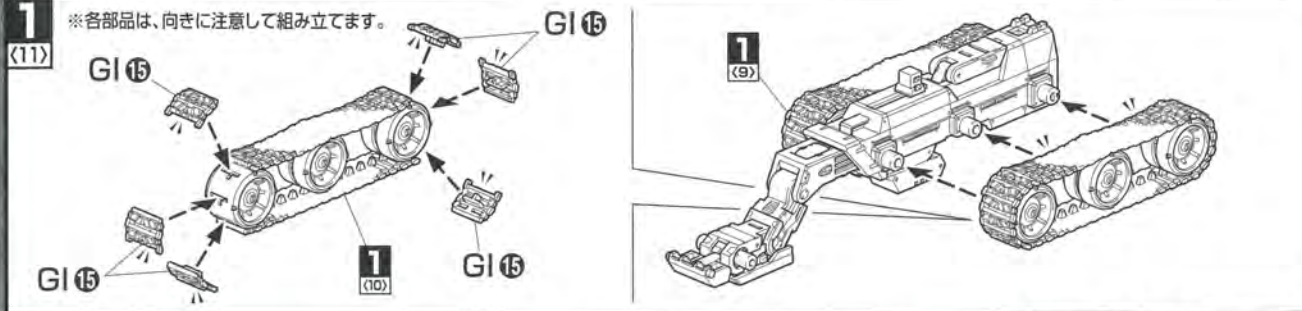
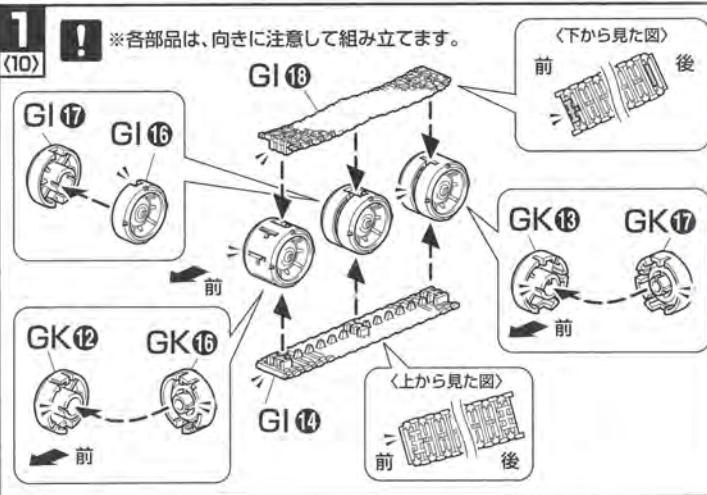
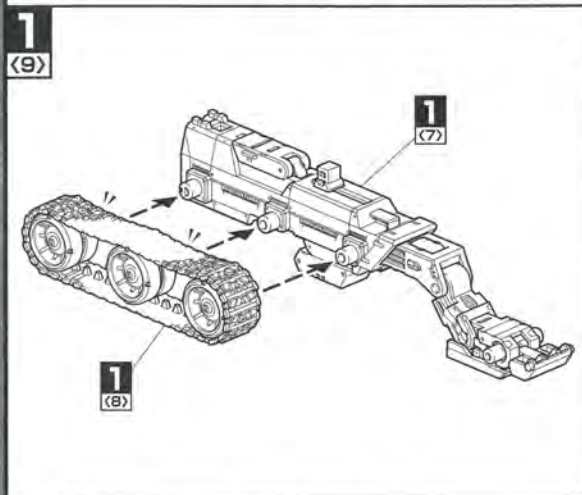
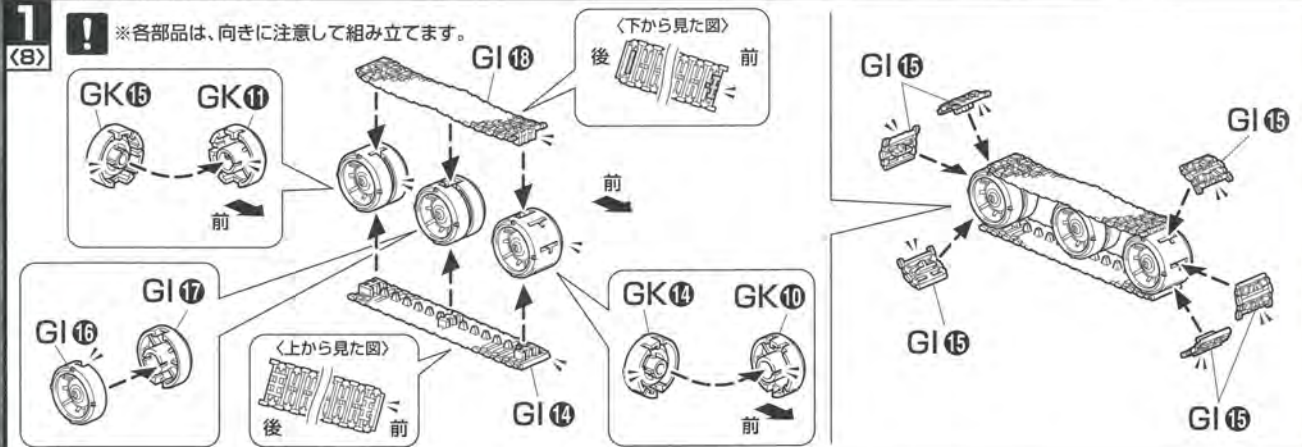
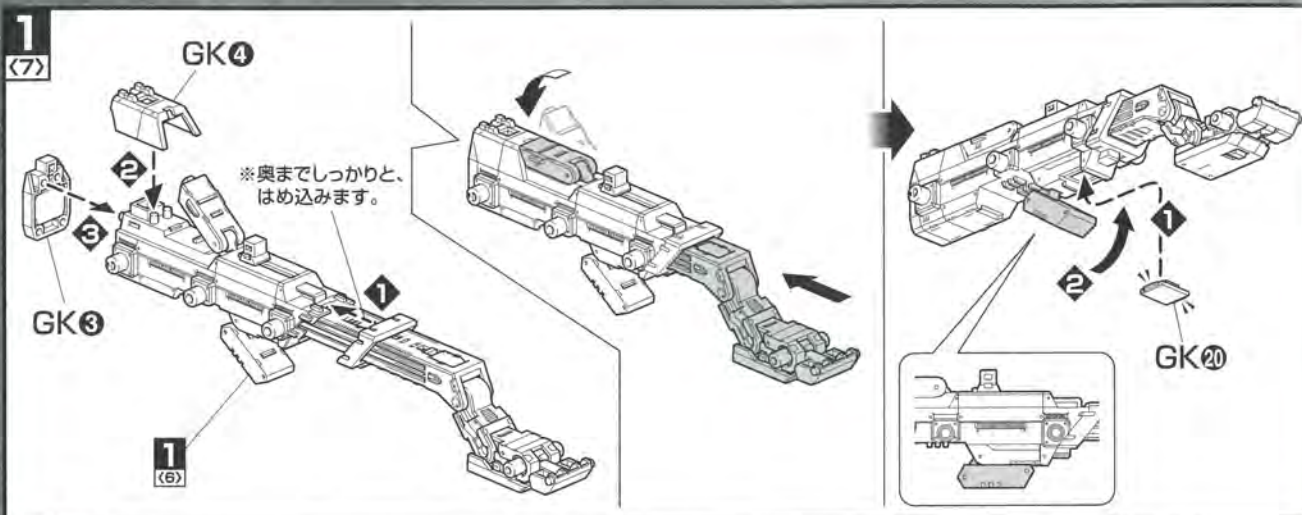
※組立図中の記号説明

! 向きに注意して組み立てる

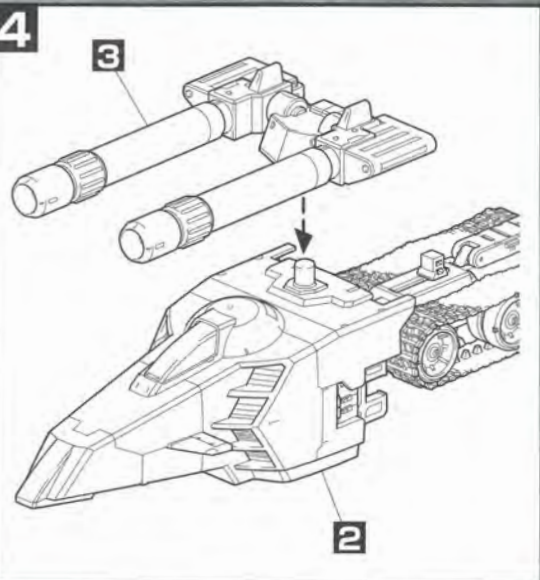
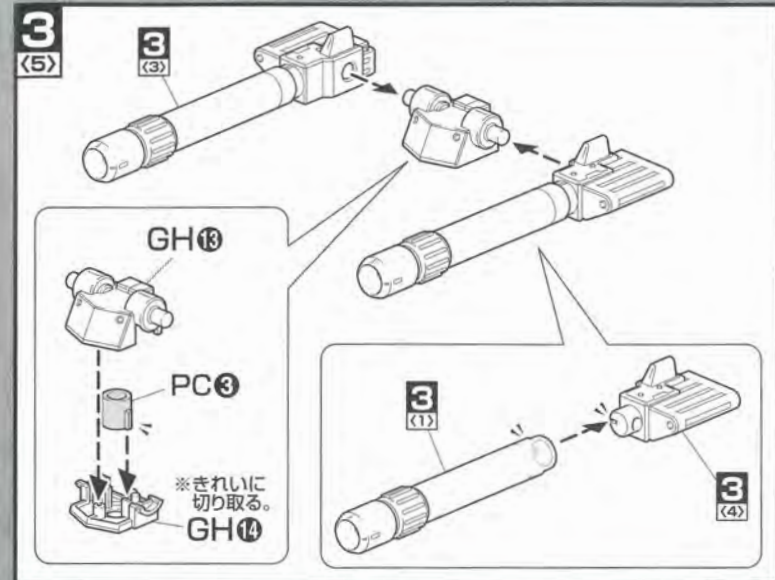
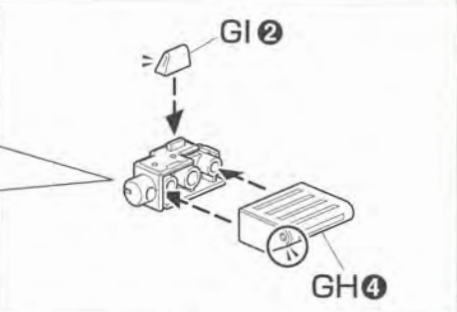
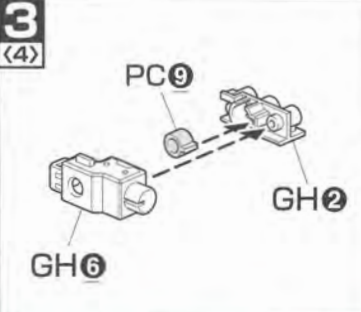
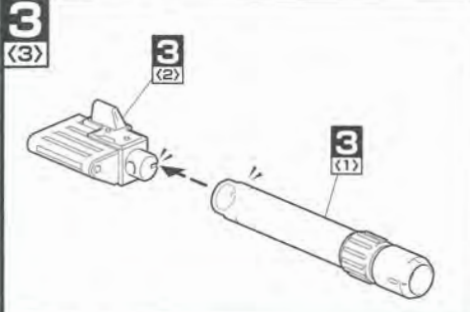
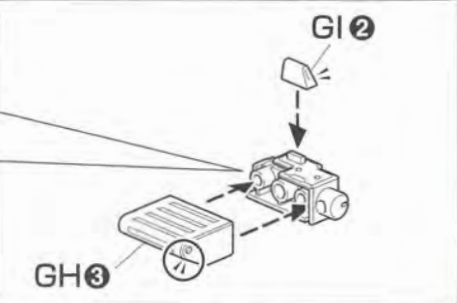
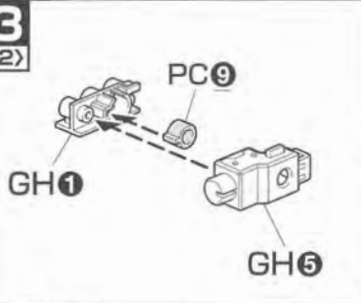
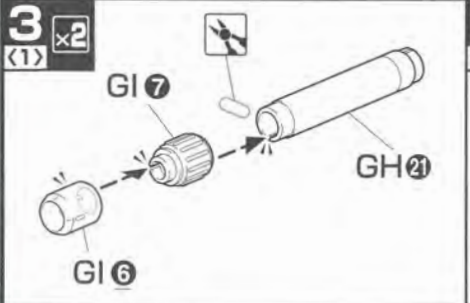
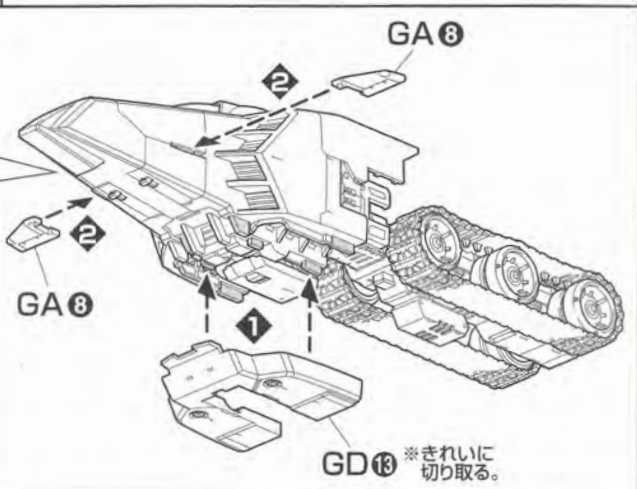
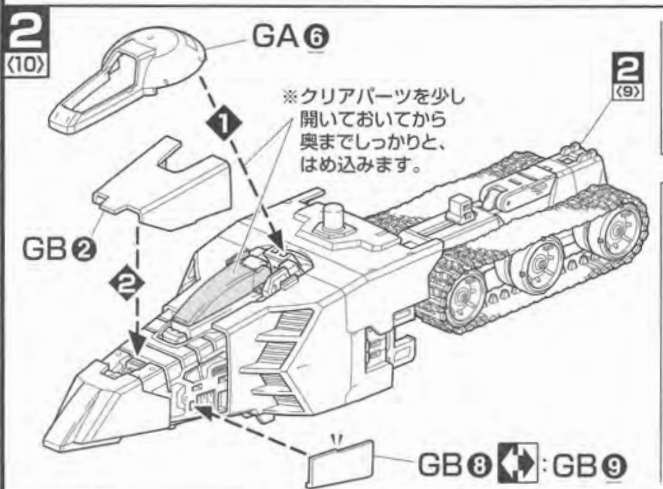
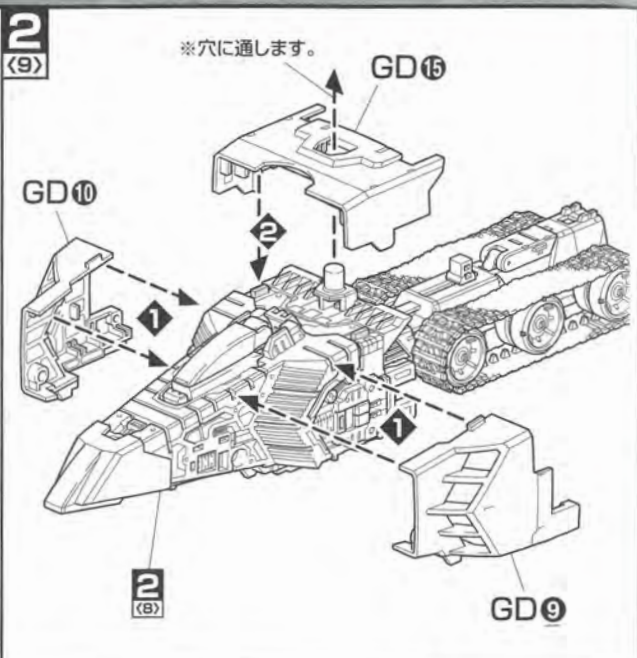
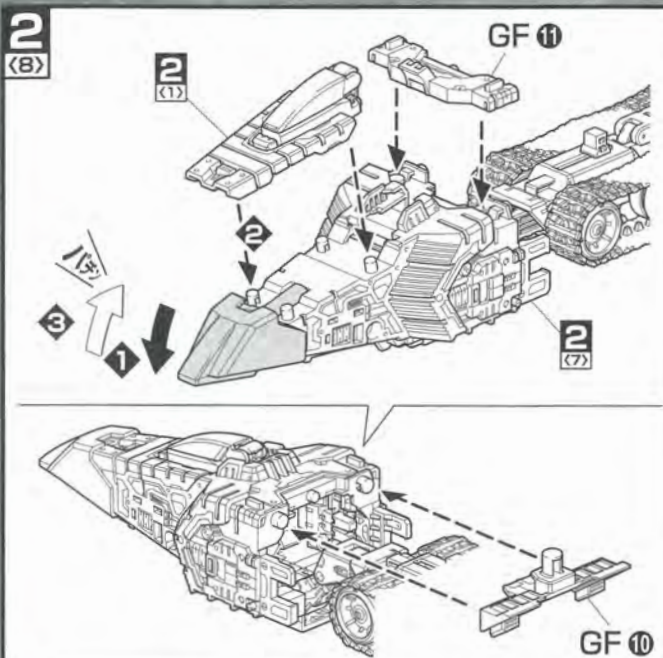
● 後から組み立てる

✂ 切り取る部分

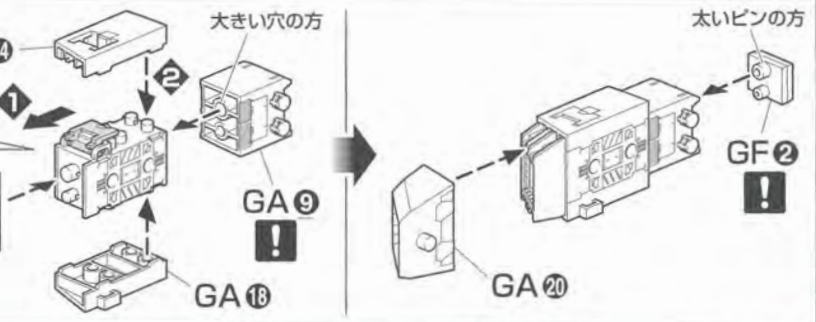
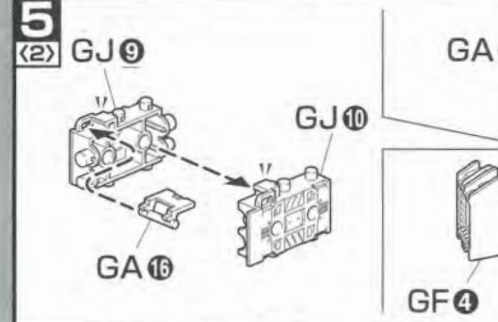
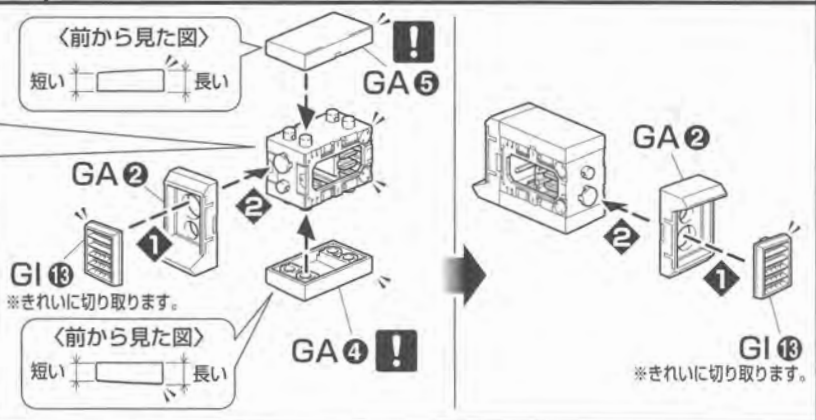
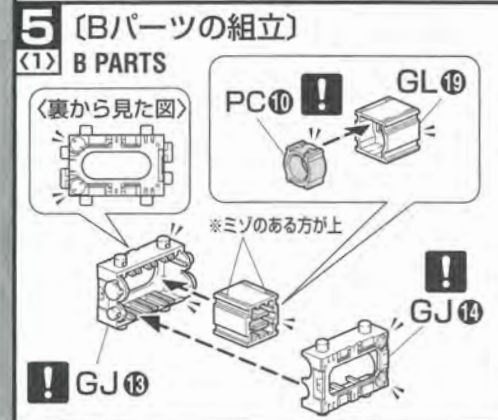




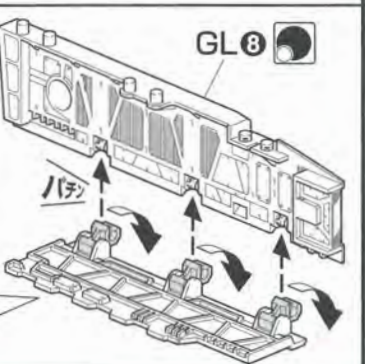
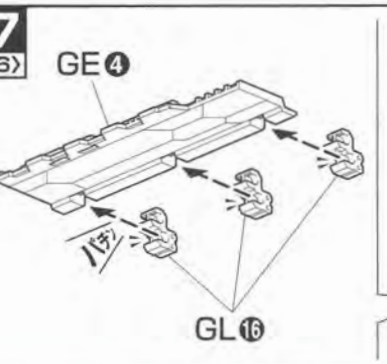
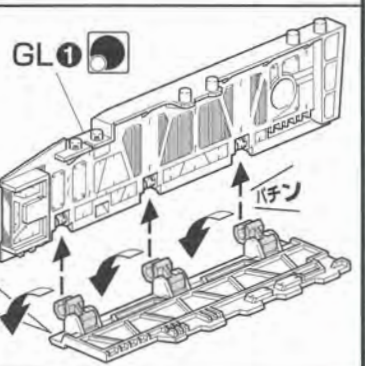
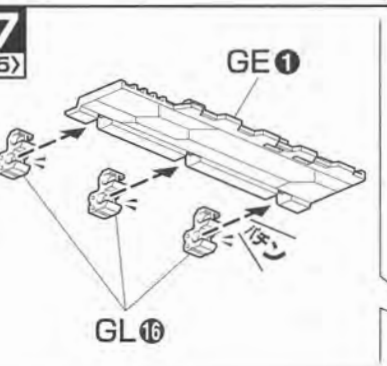
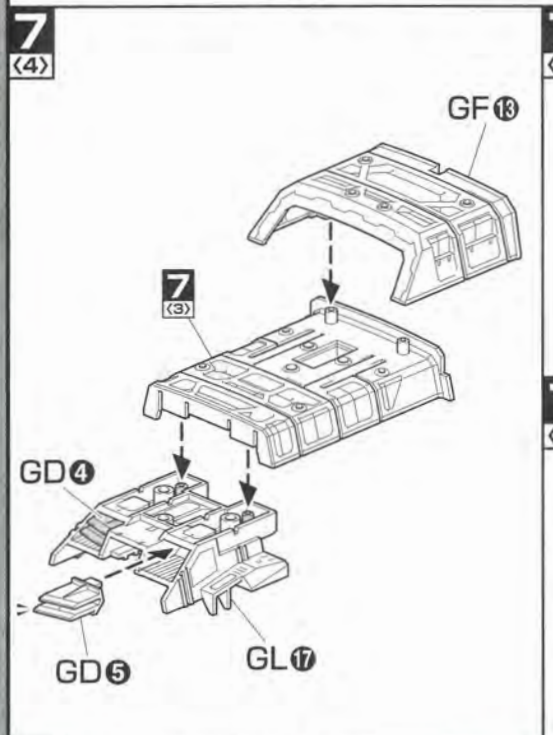
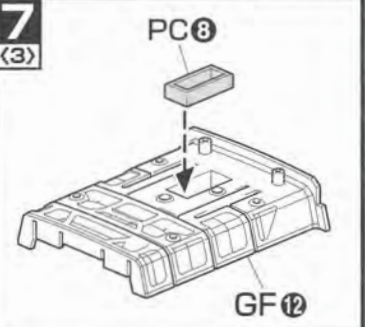
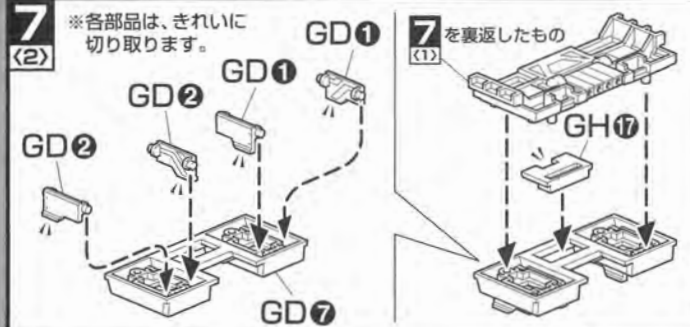
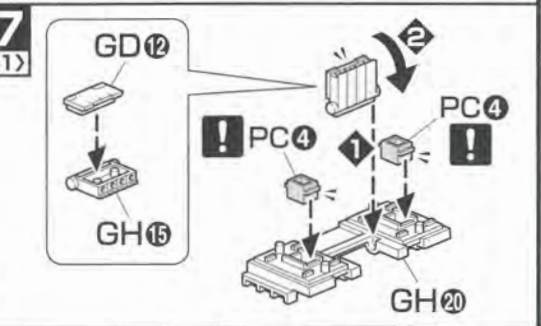
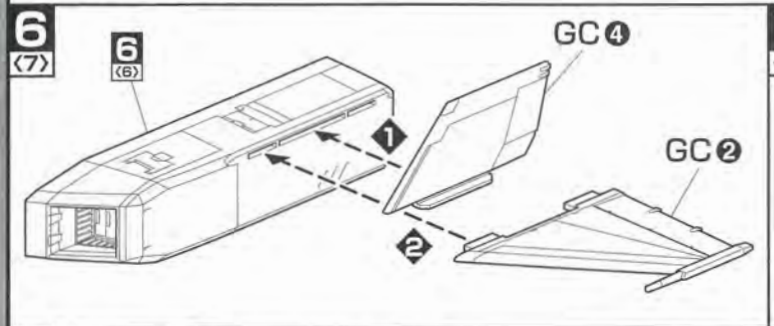
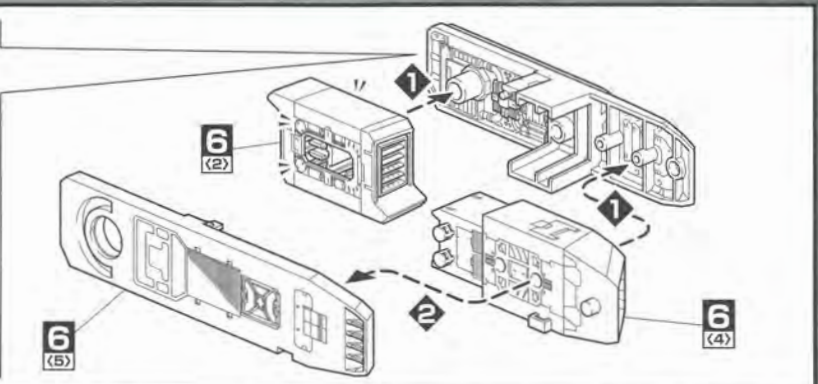
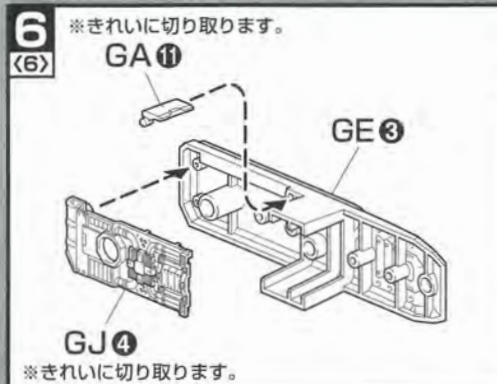
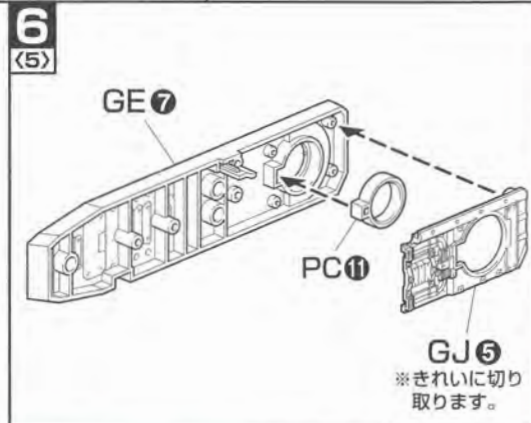
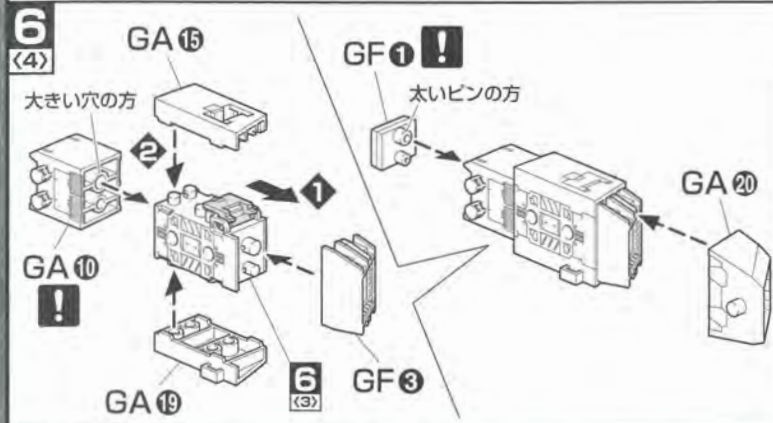
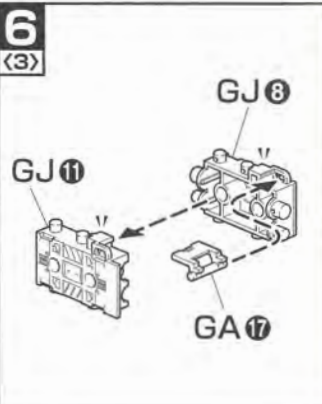
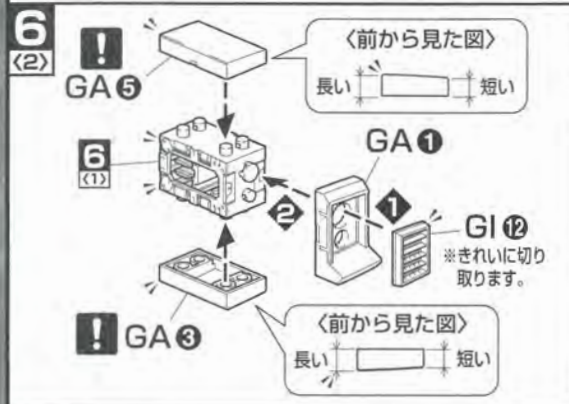
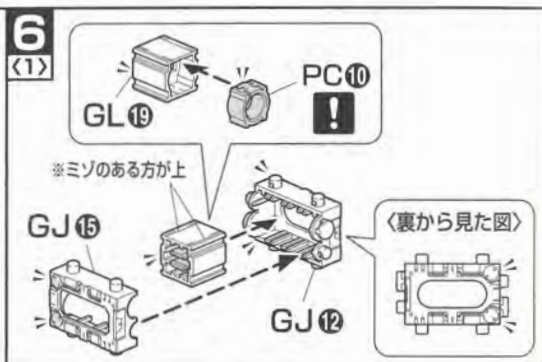
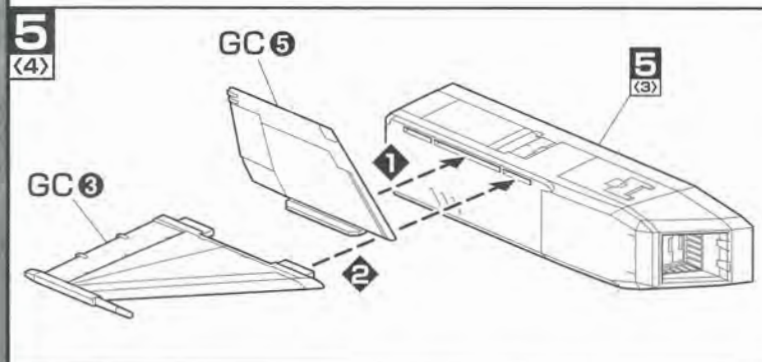
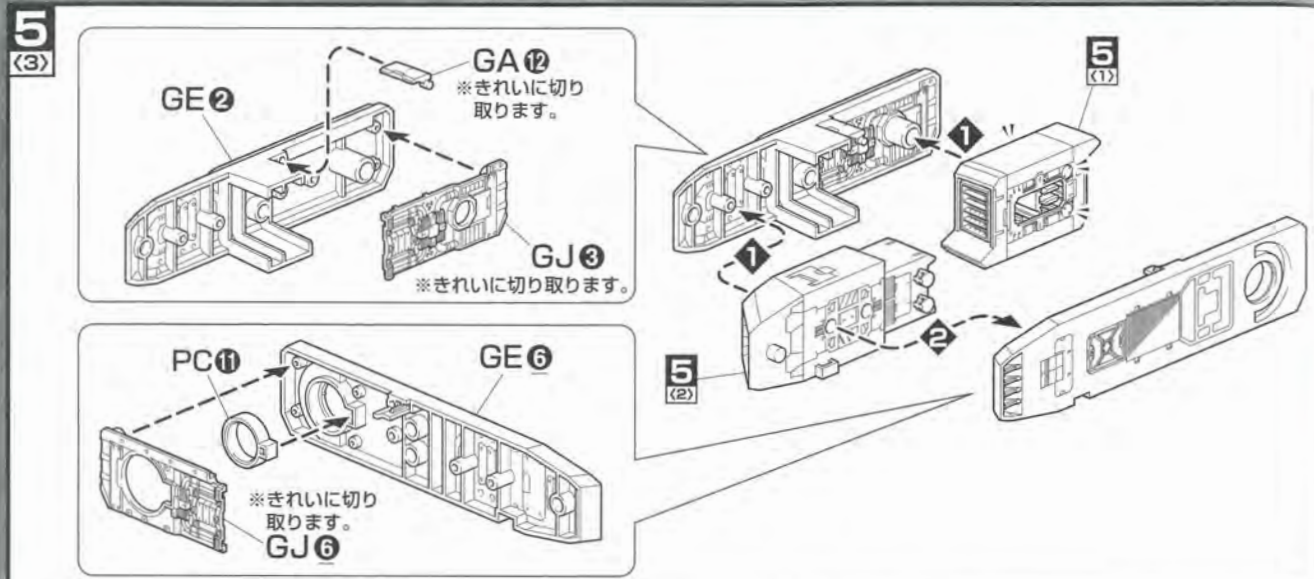




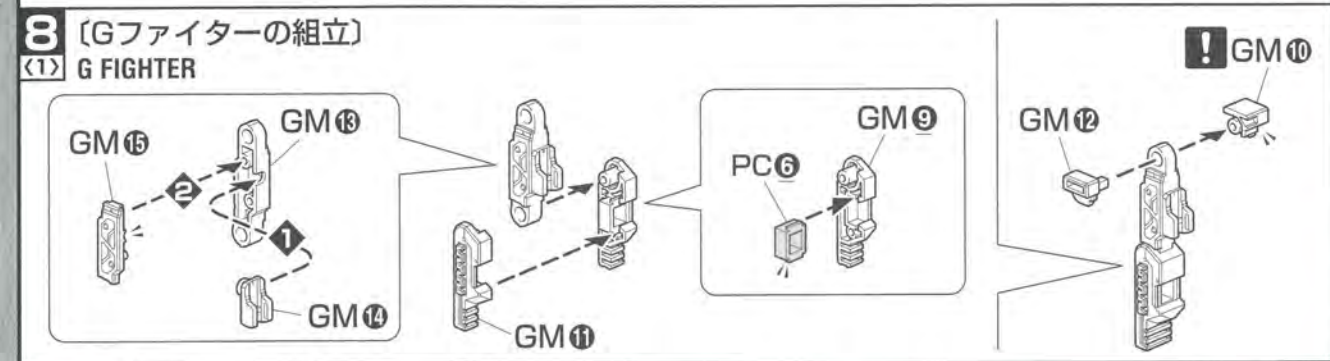
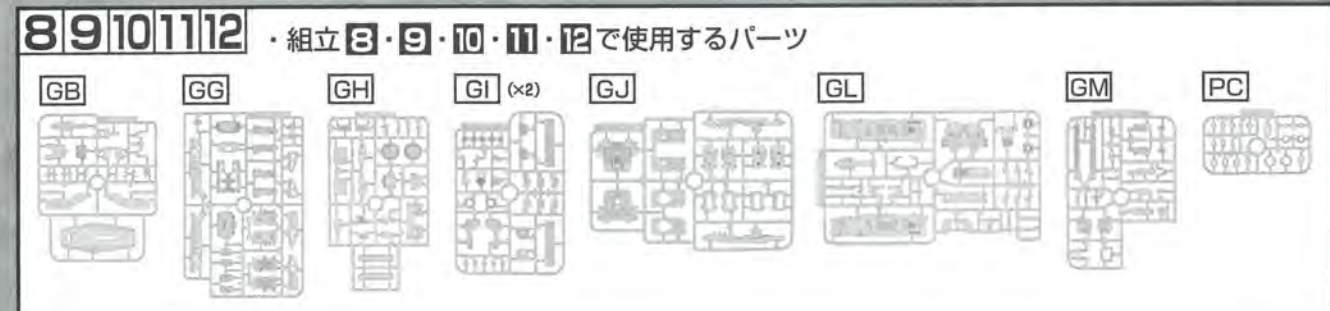
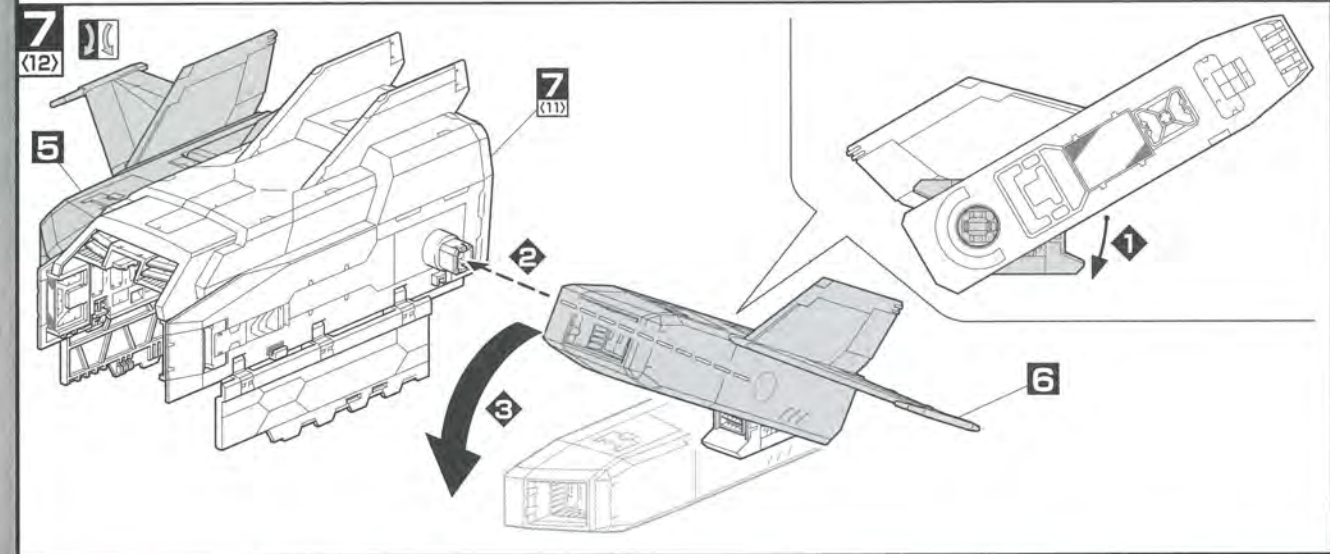
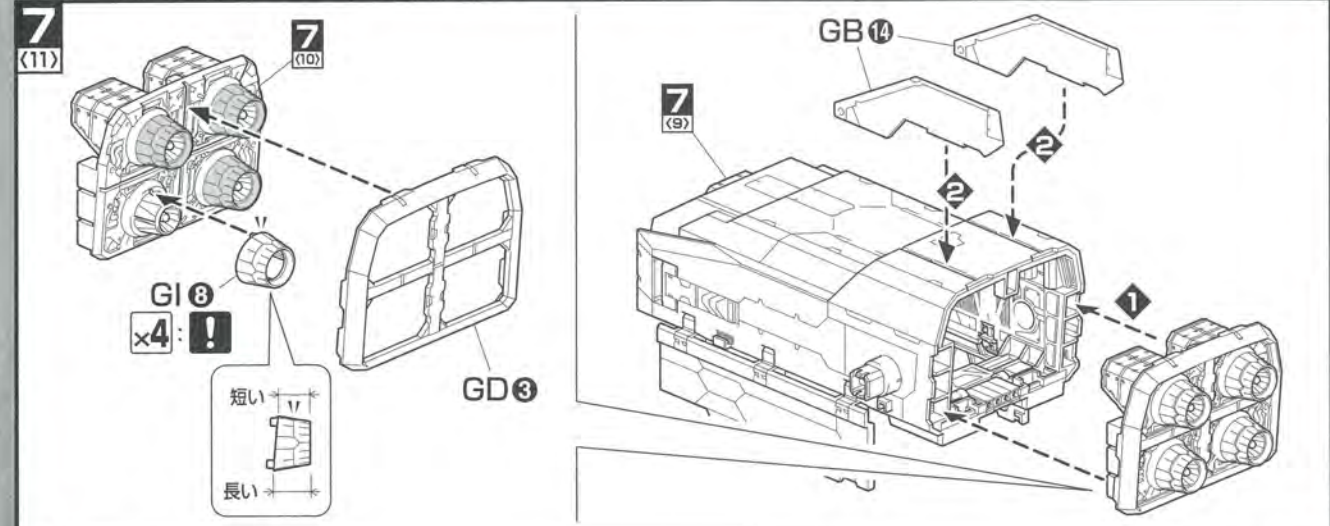
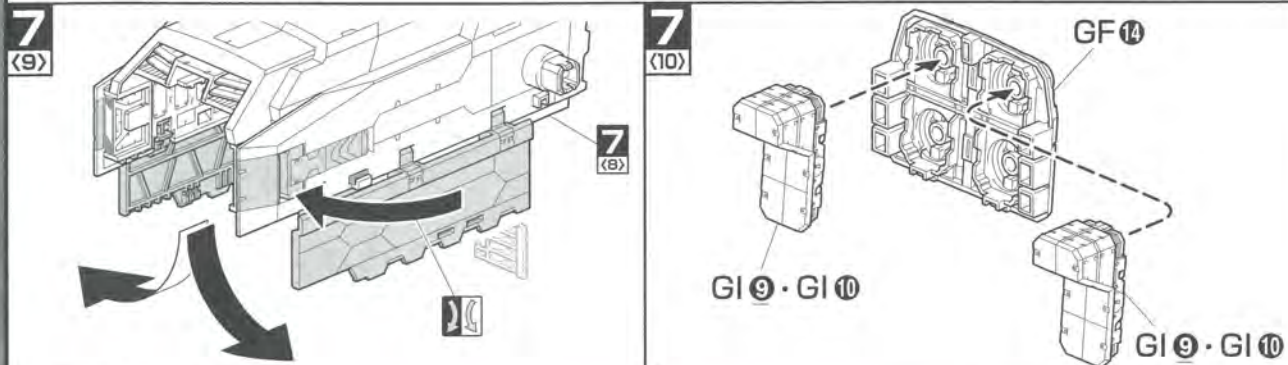
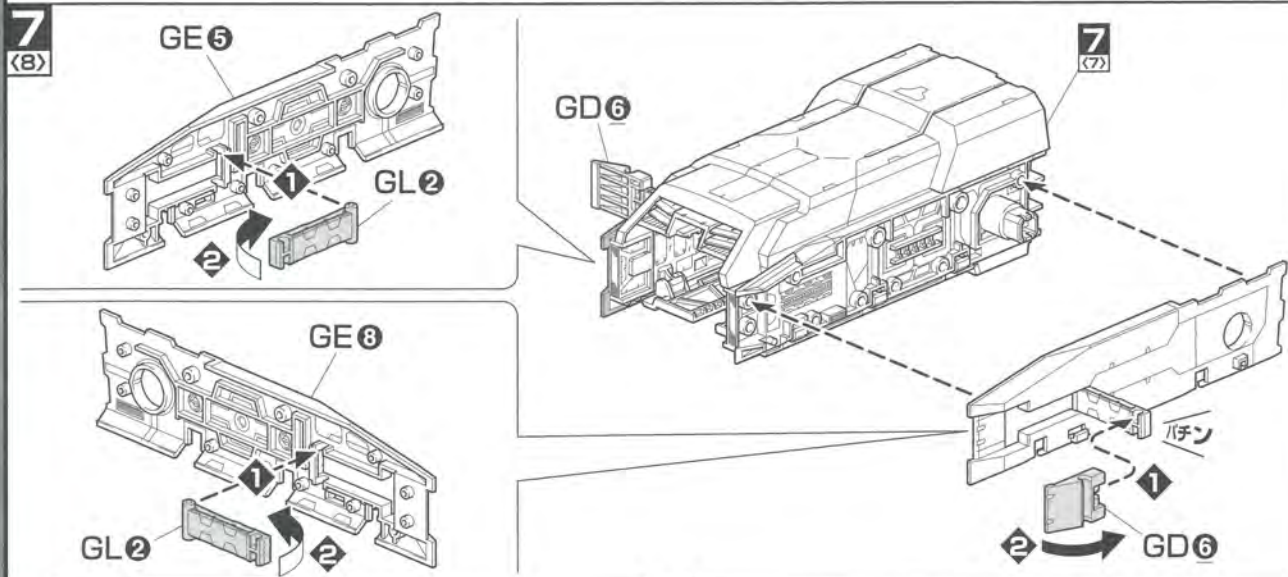
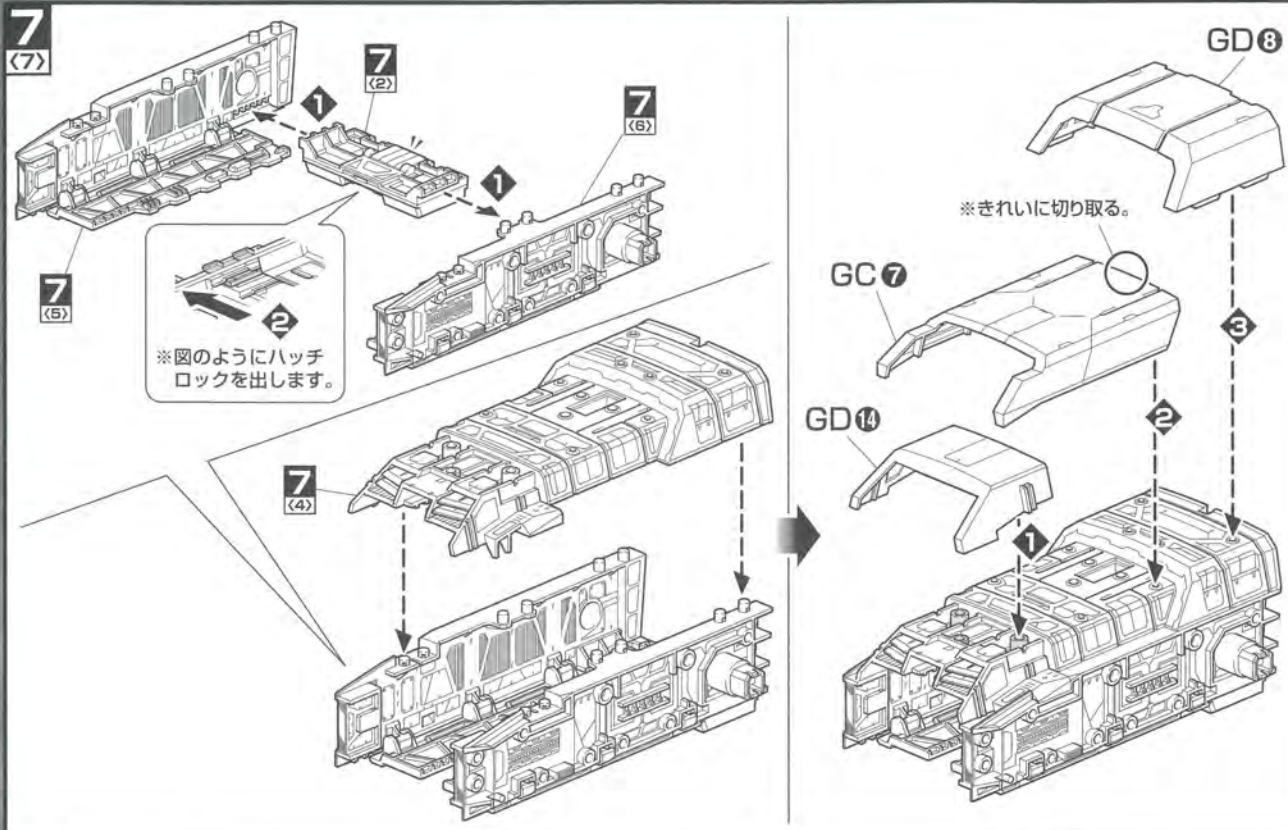
**5 6 7 B PARTS**













# MS Tracks in U.C.0079 (一年戦争の軌跡)



## G-FIGHTER FOLLOW!!

U.C.0079年11月、オデッサ作戦が連邦軍の勝利に終わりユーラシア中央部から欧州にかけて展開していた公国軍の勢力のほとんどは駆逐され、戦況は転換期を迎えようとしていた。それから数日後、ヘルファスト基地での応急修理と補給を終えたWB部隊は一路ジャブローを目指す。その道中においても、Gパーツとガンダムとのコンビネーション訓練が続けられていた。ガンダムのコクピットからアムロが呼びかける。「セイラさん、行きますよ」「エンジン全開、発進軸合わせ。よろし?」WBのカタバルトから射出されたGアーマーは、一気に蒼空を駆け上がってガンダムを分離、Gファイターに騎乗させ、空対空、空対地の戦闘シミュレーションを行う。アムロの気遣わしげな降り立ち方は心地好くもあつたが、機体と一緒に気持ちまで重くなってしまうようだ。ふとセイラの脳裏に、グフを載せた爆撃機のアタリがよぎる。今の自分の合わせ鏡だ。この戦争が終わったとしても、あんな冗談のような戦闘が常態化してしまうのではないかと憂鬱な夢を追い払うようにセイラはかぶりを振る。そういえばあの時マチルダは何と言っていたのだったか……「セイラさん? どうかしらですか」「な、何でもないわ」……自分はまだメカを信頼し切れていないのかも知れない。マチルダに報いたいという動機は自分でも納得づくだ。ただ、このまま「戦争」に慣れたいまいそで、それがセイラを不安にさせていた……

## 恐怖! 機動ビグ・ザム

U.C.0079年12月24日、宇宙要塞ソロモンの放棄を決定したドスル・ザビ中尉は、MAビグ・ザムを駆って連邦艦隊のただ中に特攻を掛ける。「あ、圧倒的だ……」その強力なビーム・バリアと全方位ビーム砲の威力を目の当たりに呆然とするアムロに対し、スレグガーは身振りして作戦を指示する。「ドッキングしてGアーマーで突っ込もうっていうんだ?」火線を見てドッキングするガンダムとGファイター。「行くぞ、アムロ曹長」「しかし中尉、どういつもりです?」「つもりもへったくれもあるものか。磁界を張っているとなりや、接近してビームをぶち込みたくない」「はい!」「こっちのビームが駄目ならガンダムのビーム・ライフル、そしてビーム・サーベルだ。いわば三重の武器があるとなりや、こっちがやられたって……」「スレグガー中尉!」「私情は禁物よ。奴の為にこれ以上の損害は出させねえ。悲しいけど、これ戦争なのよね」スレグガーはビグ・ザムを見据える。「アムロ、下から突っ込ませ!!」一心同体となった二人は、雑魚を蹴散らしビグ・ザムの死角に潜り込む。急接近するGアーマーに、空対空防御の爪型ミサイルが突き刺さる。「まだアツツ!!」「中尉!」コクピットがひしゃげ、閃光がスレグガーを飲み込んでいった。「やったなツ!!」アムロはビーム・サーベルを構えビグ・ザムに躍りかかる!!



※写真はイメージです。

## PAINTING (塗装)

### Gファイター 指定色

- ノーズ部などの塗装色  
ホワイト(100%) + イエロー(少量)  
+ ライトブラウン(少量)
- 本体などの塗装色  
ブルー(55%) インディブルー(45%)  
+ レッド(少量)

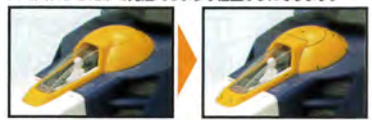
※よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご覧ください。  
※塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

- コクピットなどの塗装色  
イエロー(45%)  
+ ホワイト(35%) + オレンジ(20%)
- 主翼などの塗装色  
モンザレッド(80%) + ホワイト(10%)  
+ イエロー(5%) + ニュートラルグレー(5%)
- 内部メカなどの塗装色  
ニュートラルグレー(90%)  
+ ブラック(10%)

## ワンポイントステップ ~One point step~

### スミいれてみよう!

ガンダムマーカースミいれ用(別売り)などを使用して、キットのズシ形を塗装することで、立体感、リアル感が増します。スミ入れするだけで見えるような仕上がりになります。



## セイラ・マス

- ＜軍服＞
  - 軍服の塗装色  
ピンク(90%) + モンザレッド(10%)
  - 襟などの塗装色  
はだ色(100%)
  - 袖などの塗装色  
モンザレッド(100%)
  - ラインなどの塗装色  
イエロー(45%) + ホワイト(35%)  
+ オレンジ(20%)
  - 足などの塗装色  
ホワイト(100%)
  - 髪などの塗装色  
ホワイト(75%) + イエロー(15%)  
+ はだ色(10%)
  - ブーツの塗装色  
ダークアース(90%) + マホガニー(10%)
- ＜ノーマル・スーツ＞
  - イエロー部の塗装色  
ホワイト(75%) + イエロー(20%)  
+ はだ色(5%)

## スレグガー・ロウ

- ＜軍服＞
  - 軍服の塗装色  
ホワイト(90%)  
+ ニュートラルグレー(10%)
  - 肩、袖、ライン、足など  
セイラと同じ
  - バッグの塗装色  
インディブルー(100%)
  - 靴の塗装色  
ウッドブラウン(80%)  
+ ミドルストーン(20%)
  - ブーツの塗装色  
ミドルストーン(100%)
- ＜ノーマル・スーツ＞
  - ブルー部の塗装色  
インディブルー(100%)

## クルー

- ラインなどの塗装色  
イエロー(45%) + ホワイト(35%)  
+ オレンジ(20%)
- ヘルメットなどの塗装色  
ホワイト(70%) + ミディアムブルー(30%)
- パイザーなどの塗装色  
スカイブルー(100%)
- ヘルメットラインなどの塗装色  
ミッドナイトブルー(100%)
- ベルトの塗装色  
ダークグリーン(80%) + スカイブルー(20%)
- 本体などの塗装色  
スカイブルー(95%) + スカイブルー(5%)
- ヘルメットなどの塗装色  
スカイブルー(100%)
- パイザーなどの塗装色  
スカイブルー(100%)
- ブーツなどの塗装色  
ダークグリーン(80%)  
+ スカイブルー(20%)
- レッド部の塗装色  
モンザレッド(100%)
- ブルー・グレー部の塗装色  
ミディアムブルー(100%)

GファイターとはRX-78-2 ガンダムをサポートするための支援メカである。これは「Gパーツ」あるいは「Gメカ」とも呼ばれ、あらゆる状況下に対応した戦術的形態がガンダムとセットで展開可能な兵器である。Gファイターはその数種類ある形態のうちのGパーツ単体での戦闘が可能形態である。

## G-FIGHTER MECHANISM



主武装である2門のメガ粒子砲は、ガンダムのビーム・ライフルを上回る威力を持ち、ガンダムとドッキングする事でさらなる出力向上や砲撃間隔の短縮が可能である。

Gパーツのメイン・ジェネレーターはコア・ファイターと連動した運用も可能。

機体後部には小型ミサイル・ランチャーが装備されている。

Gパーツの先端には小型ミサイルが装備され、水平発射、対潜攻撃が可能である。

MODEL NUMBER : G-P.A.R.T.S.  
Total length(G-FIGHTER MODE) : 26.5m  
Total width : 18.5m  
Armor materials : Lunar-titanium alloy

Gアーマー形態時に、ガンダムのマニピュレーターを保護するための強化フレームの展開が可能である。

サブ・フライト・システムの使用も考慮され、ガンダムの足部を固定するためのロック機構が組み込まれている。

Gアーマー形態時は主翼が回転し、MS搭載時の妨げにならないよう設計されている。

## G-Multiple Expansion of Changeable Armaments (G-MECHA)

### ■RX-78-2の装甲強化/MS輸送/長距離重爆撃機



### Gアーマー

Gパーツおよびガンダム(+シールド)で構成される汎用航空/宇宙戦闘兵器。ガンダムを前線に投入するまでの時間短縮は無論のこと、「空輸中の耐弾性の強化」を主目的としている。

### ■支援用重戦闘機/S・F・S (サブ・フライト・システム)

Gファイター  
Gメカ単体で運用する「Gファイター」と呼ばれる戦闘機。ガンダムと連携したサブ・フライト・システムとして立体的な戦闘能力をガンダムに付与する。

### ■高機動型(MA型)

ガンダムにGメカBパーツを装着した状態。MS単体の場合に比べて推力が飛躍的に向上する。

### ガンダム 高機動型(ガンダム・スカイ)

### ■陸戦型重戦闘車両

ガンダムの上半身とGメカAパーツおよびコア・ファイターからなる陸戦兵器。通常、メガ粒子砲塔は180°回転させて使用する。

### Gブル



### ■機動性/一撃離脱



### Gスカイ

ガンダムの下半身とGメカBパーツおよびコア・ファイターからなる航空/宇宙兵器。機動性が向上。

G-Practical Advanced Research for Tactical System

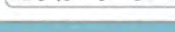
## G.P.A.R.T.S.

Gパーツは、RX-78-2ガンダムとセットでの運用で戦術や戦闘状況により様々な形態に変形できる。これはガンダムのサポートメカとしてだけでなくコア・ブロックシステムを利用した「機能拡張」という運用法を目的としているものである。

### Gスカイ・イーゼー



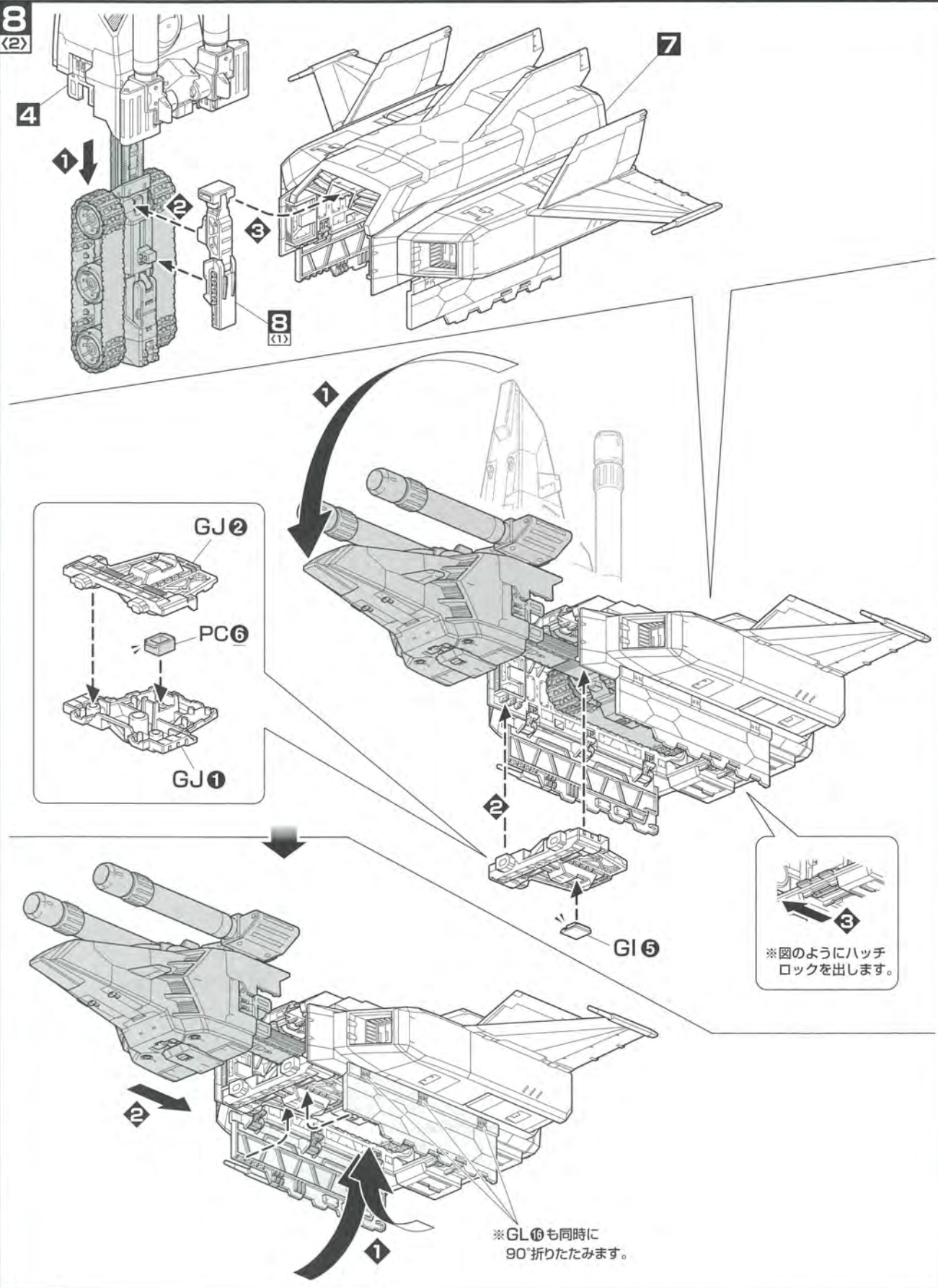
### Gブル・イーゼー



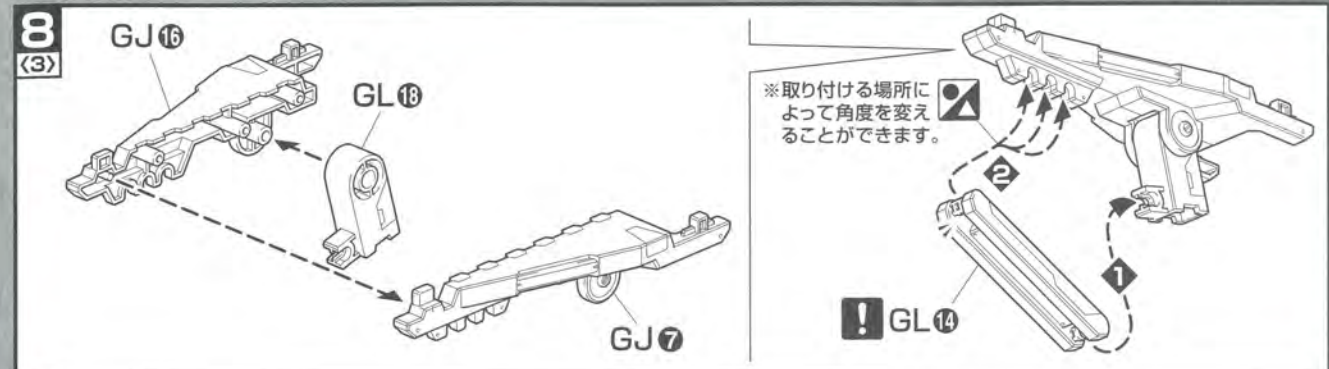
※この商品はMG RX-78-2 ガンダム Ver.2.0(別売り)に対応しています。



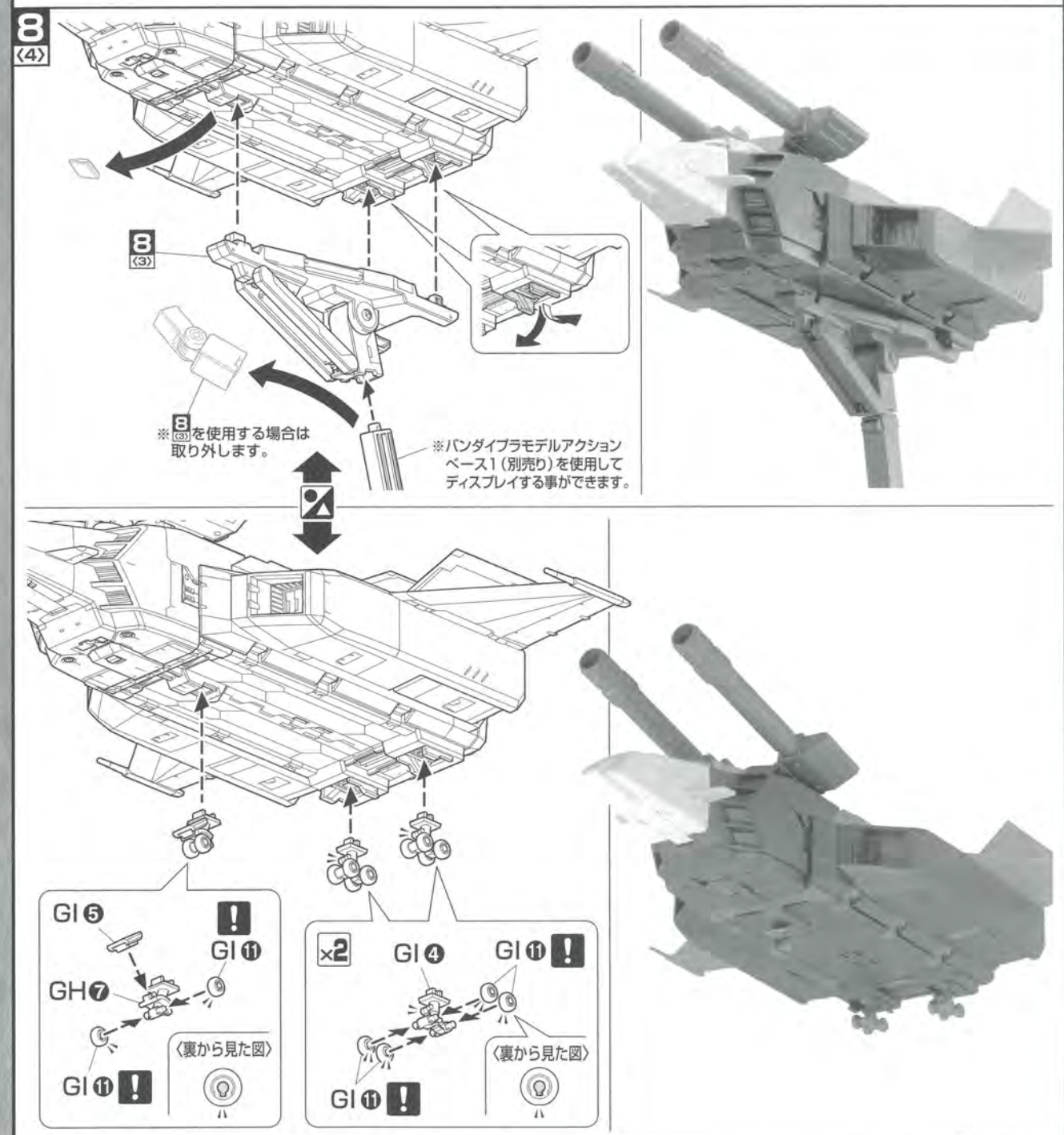
8  
(2)



8  
(3)



8  
(4)

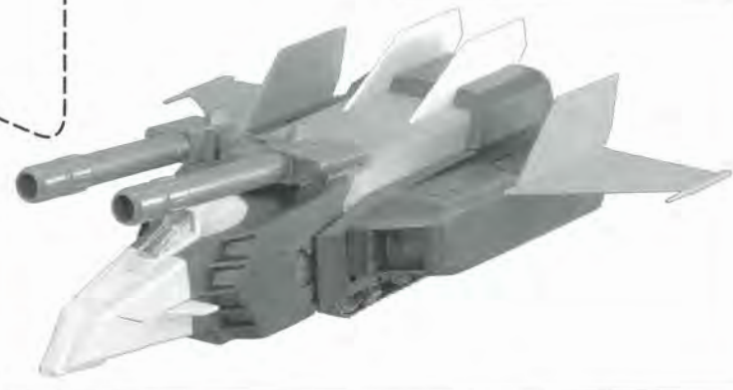
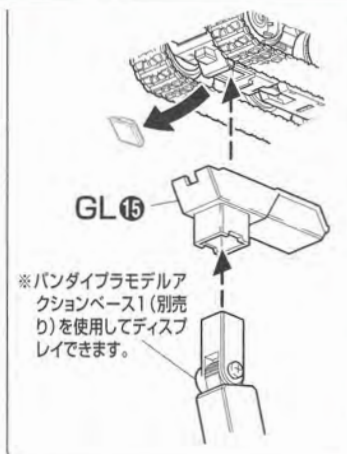
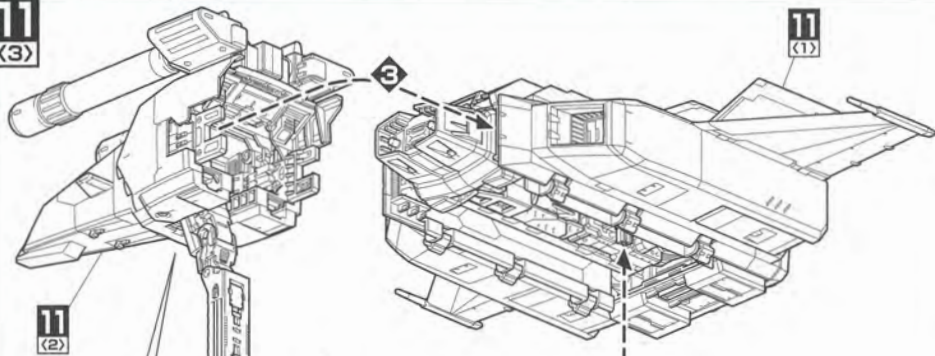








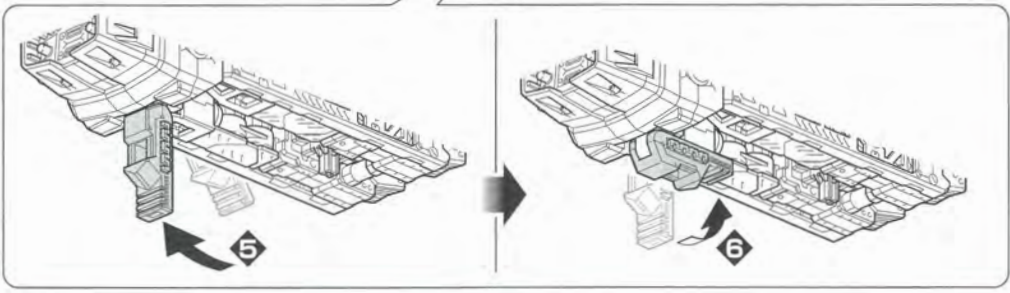
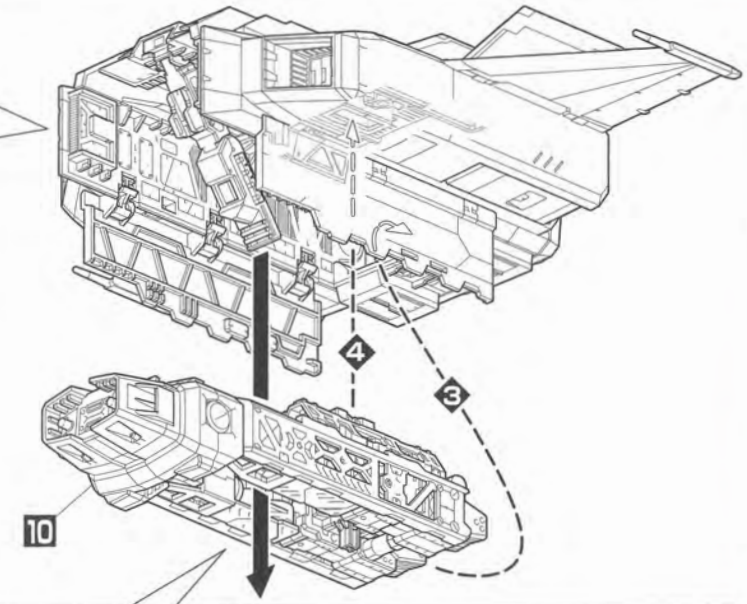
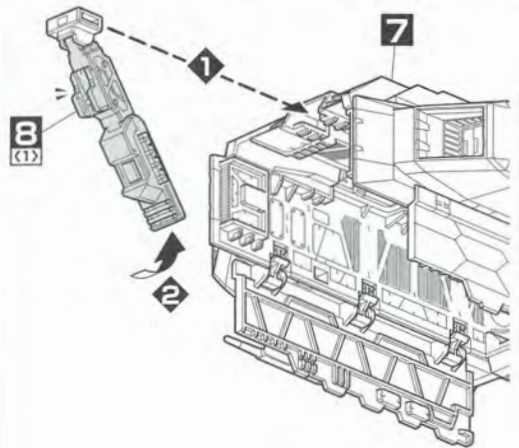
11  
(3)



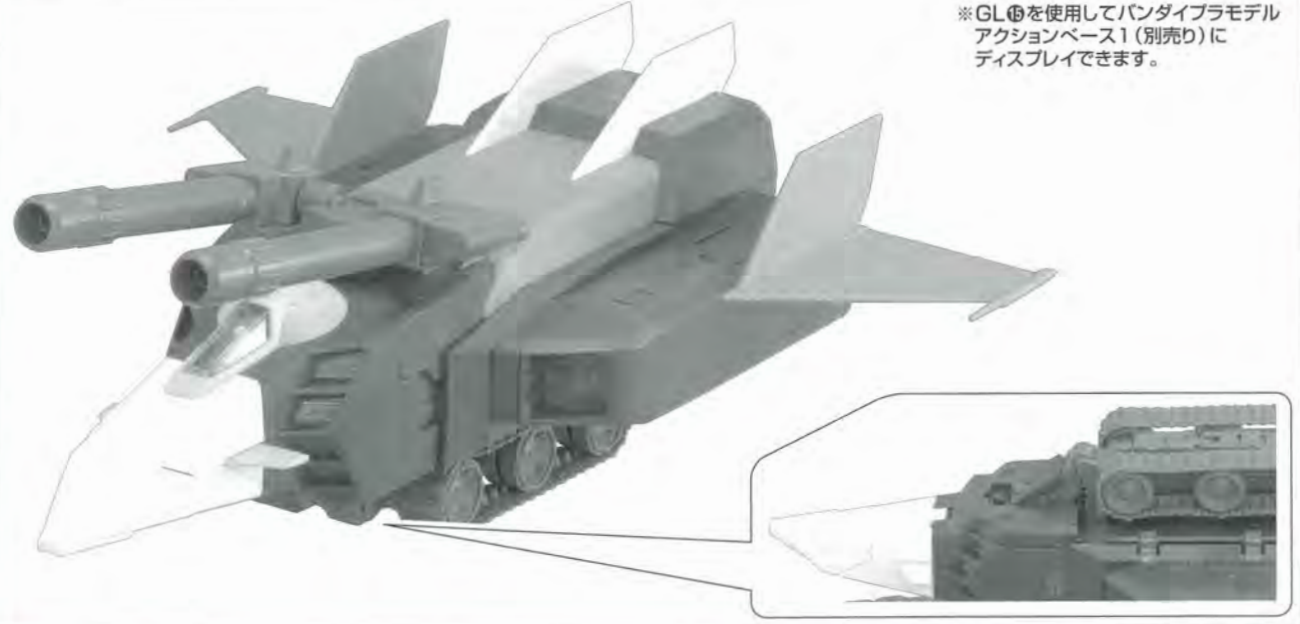
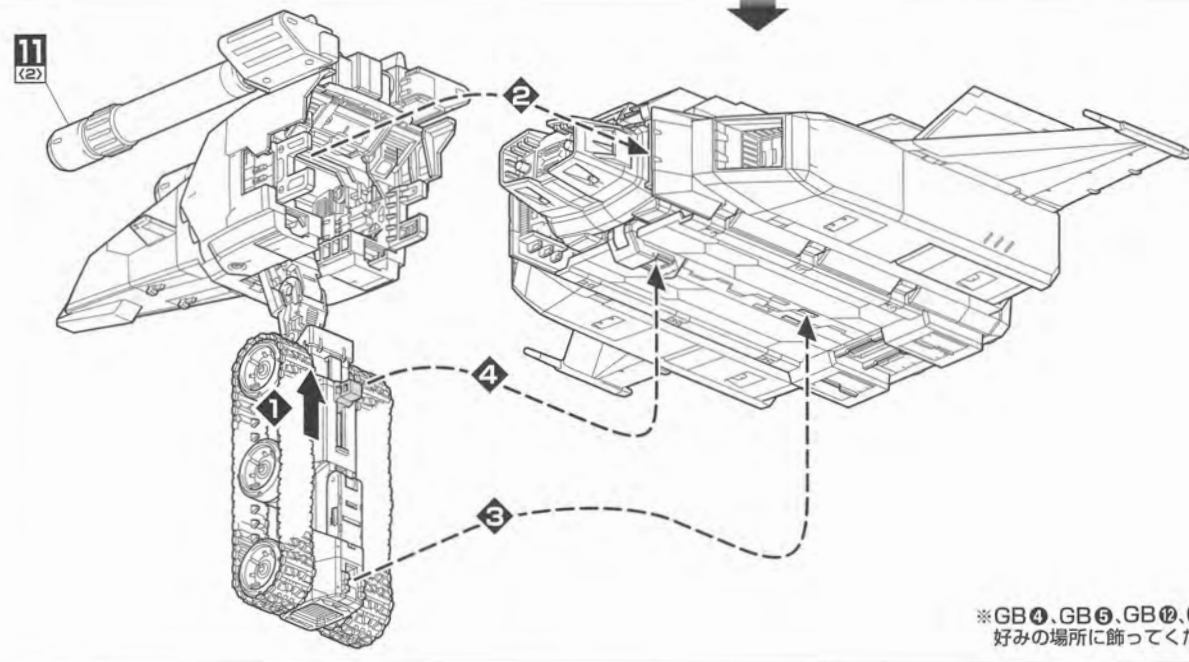
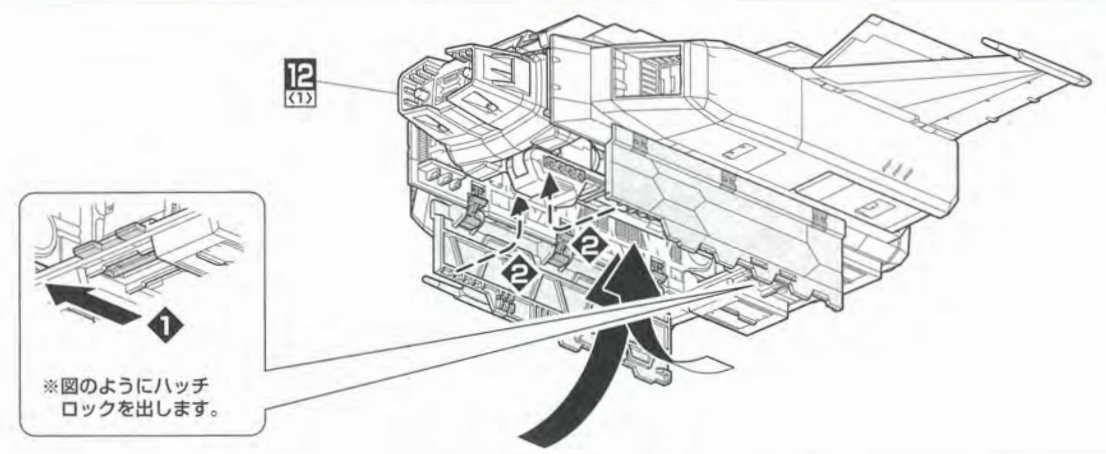
12  
(1)

〔Gファイターキャタピラユニット展開状態〕

※GファイターをP15の7・8(1)、P21の11(2)の状態に戻してから変形させます。



12  
(2)

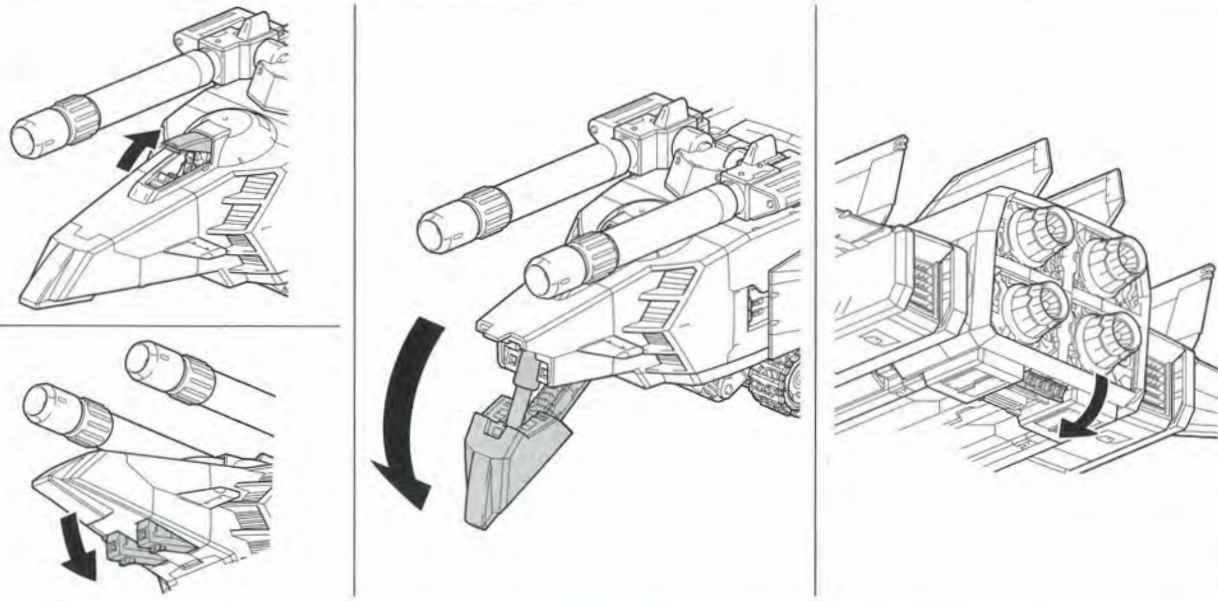


※GB4、GB6、GB7、GB8は好みの場所に飾ってください。

※GL16を使用してパンダイプラモデルアクションベース1(別売り)にディスプレイできます。

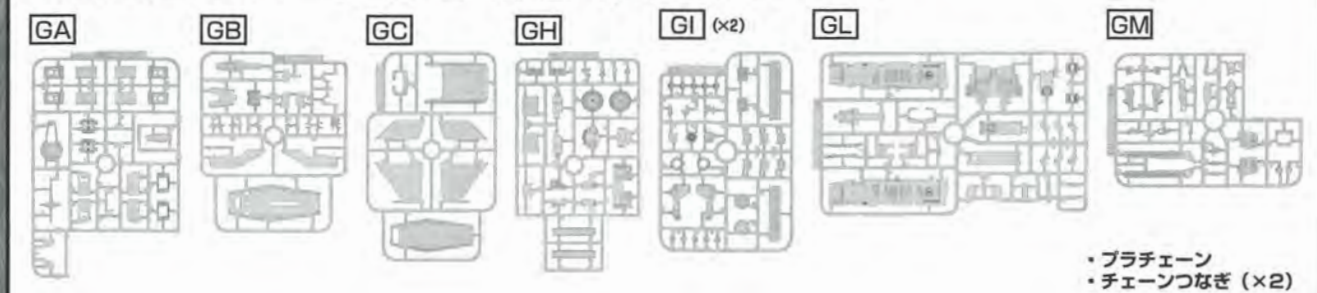


12  
(3)



ここからの説明は1/100SCALE MGシリーズ RX-78-2 ガンダム Ver.2.0 (別売り) が必要です

13 14 15 16 17 18 ・組立 13・14・15・16・17・18 で使用するパーツ



13



※MGガンダムVer.2.0 (別売り)



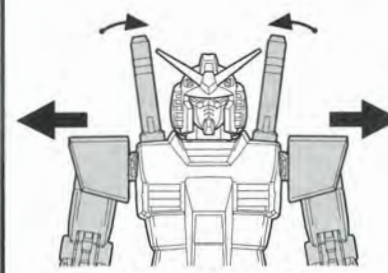
24

※組立図中の記号説明 両側を同じように動かす

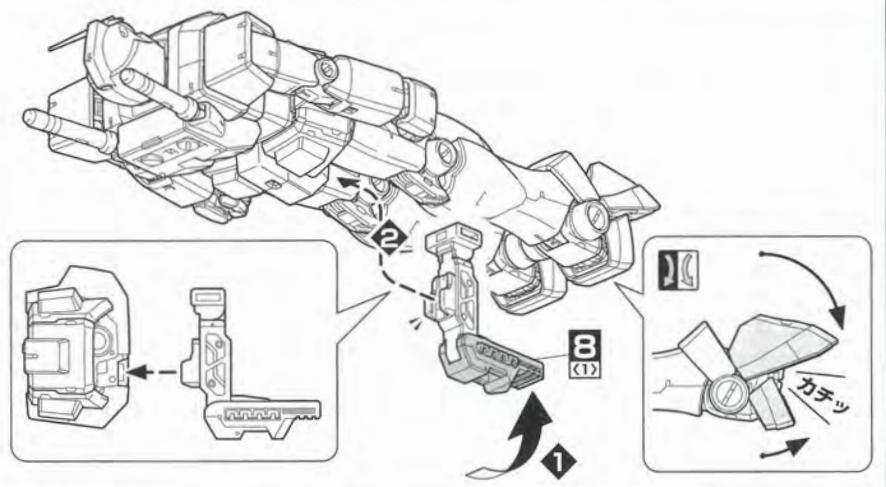
14  
(1)

〔Gアーマー〕

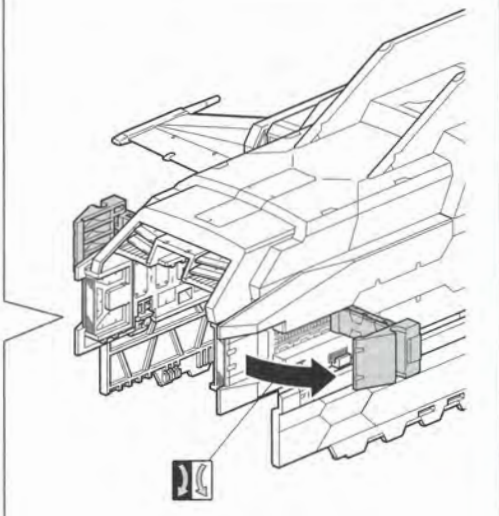
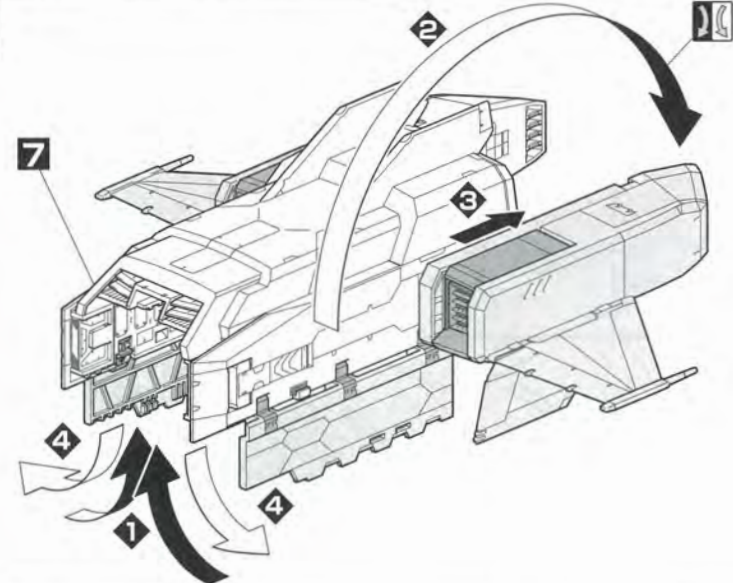
※GファイターをP15の7・8、P21の11の状態に戻してから変形させます。



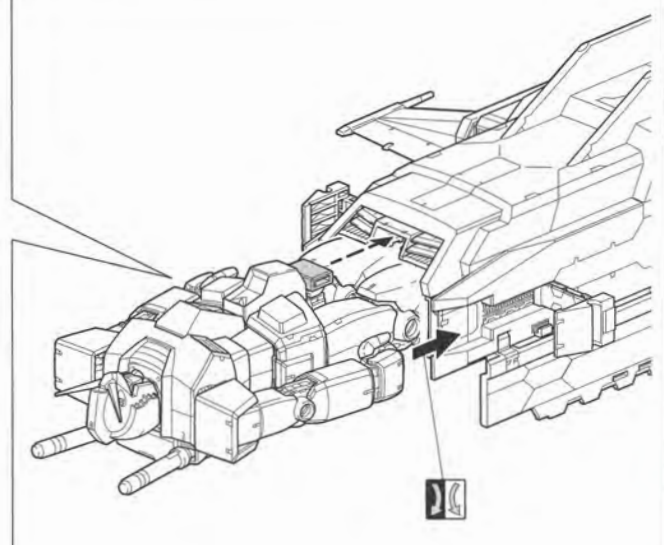
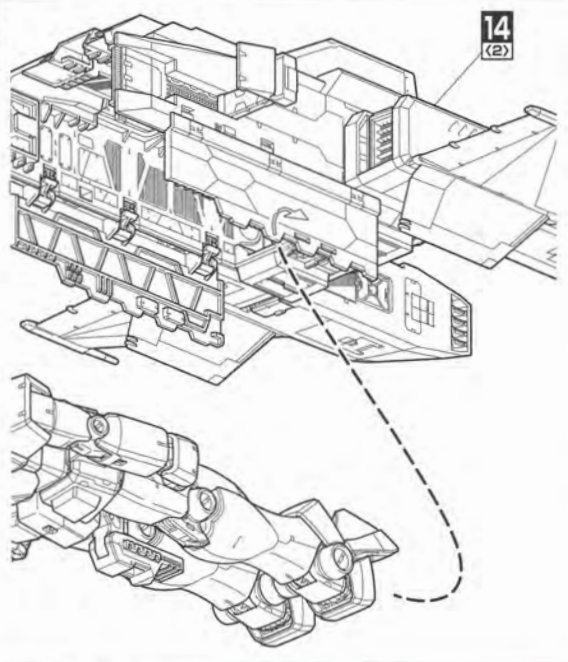
※ライフル・シールドは外しておきます。



14  
(2)



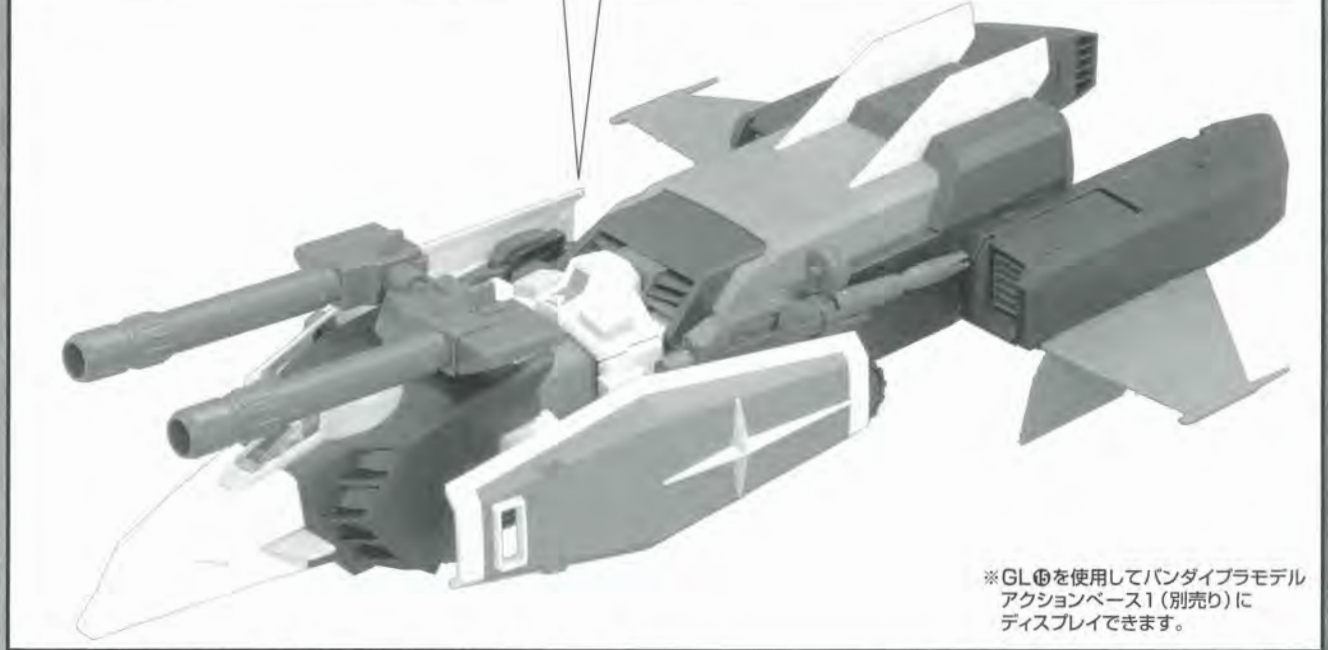
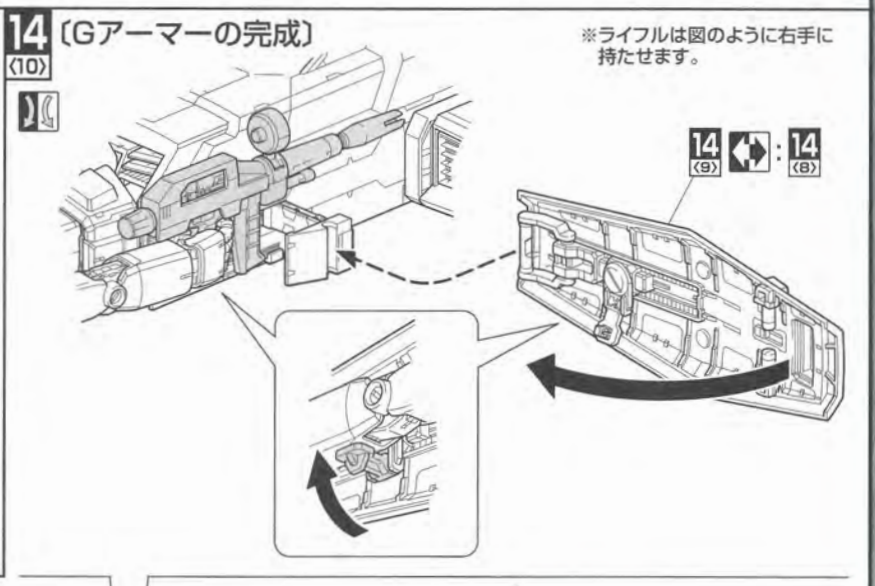
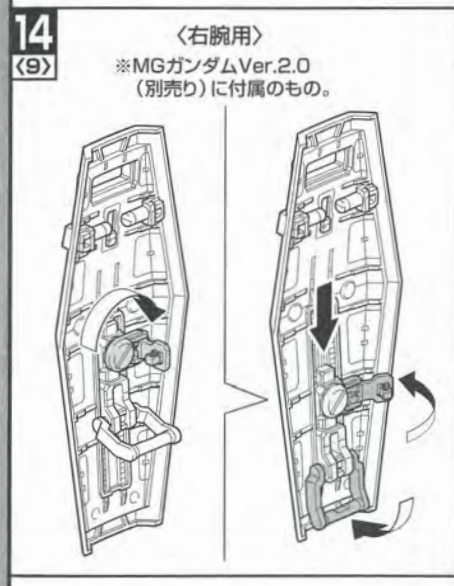
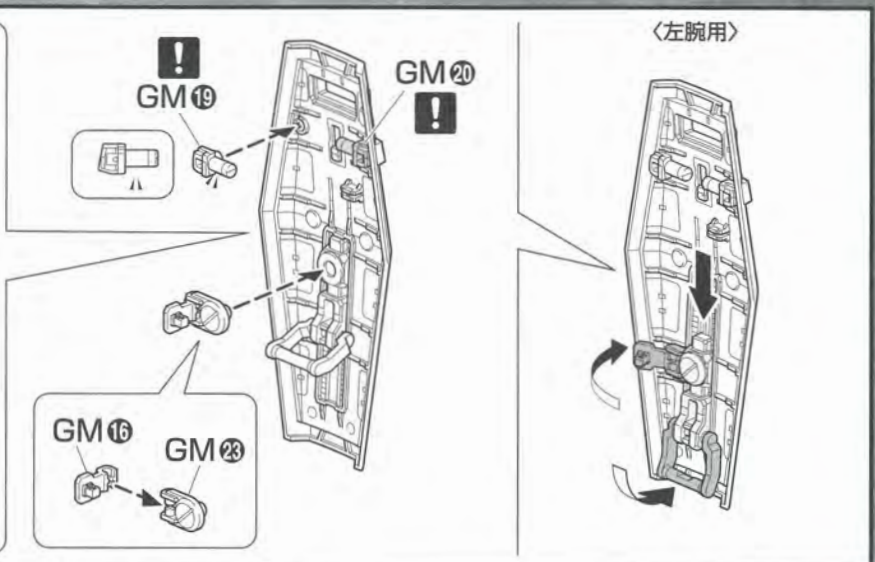
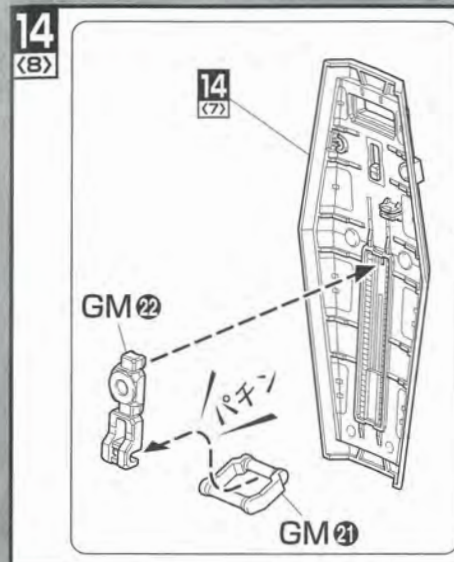
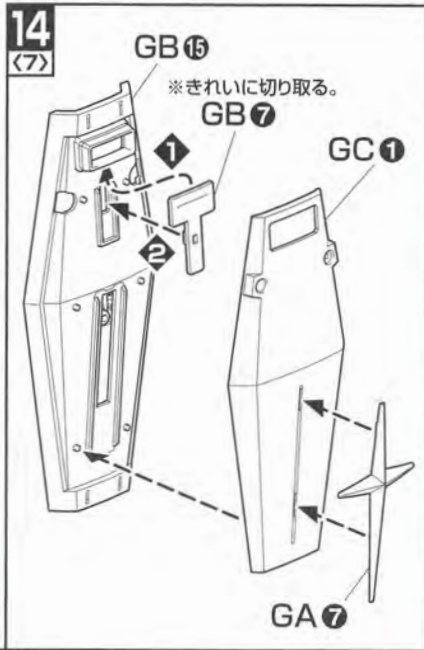
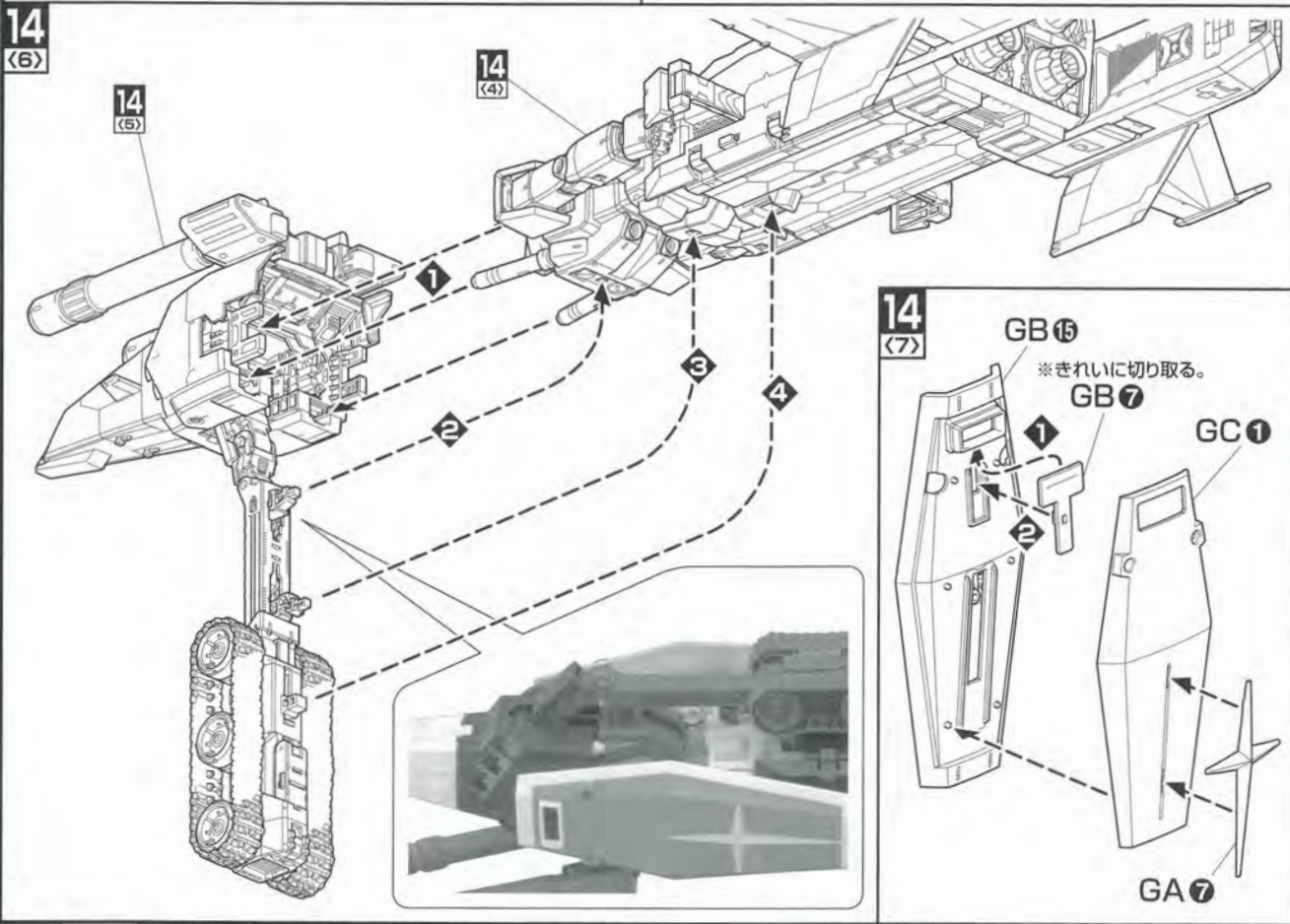
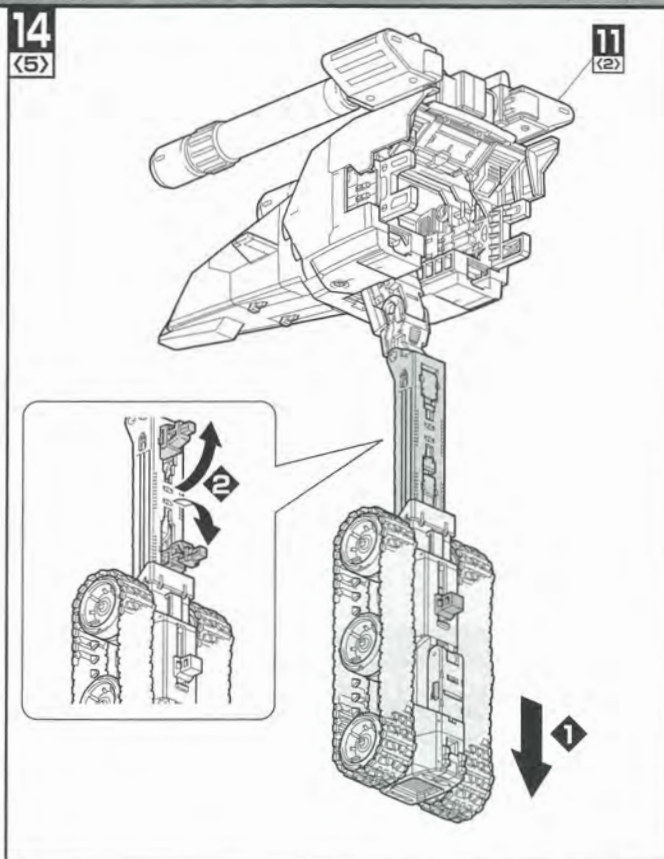
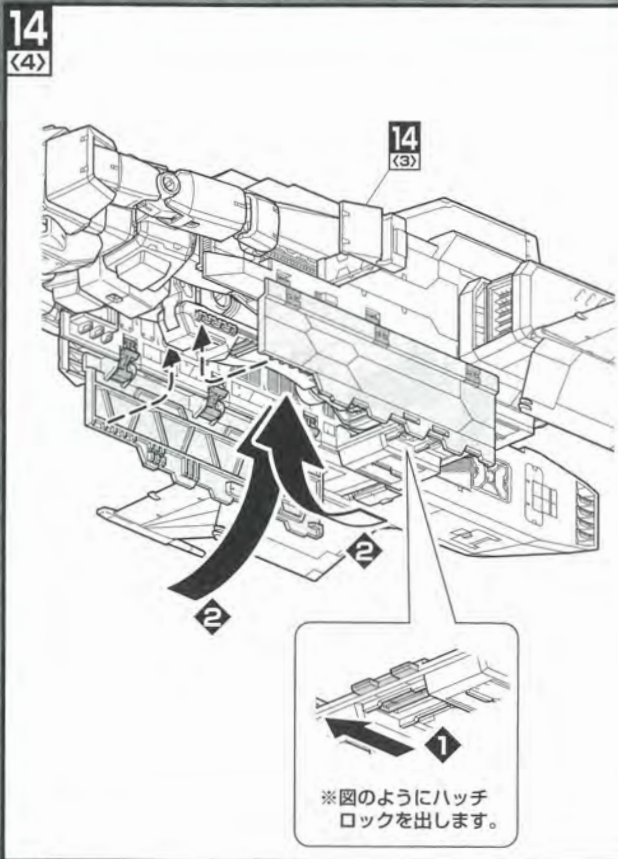
14  
(3)



※組立図中の記号説明 両側を同じように動かす

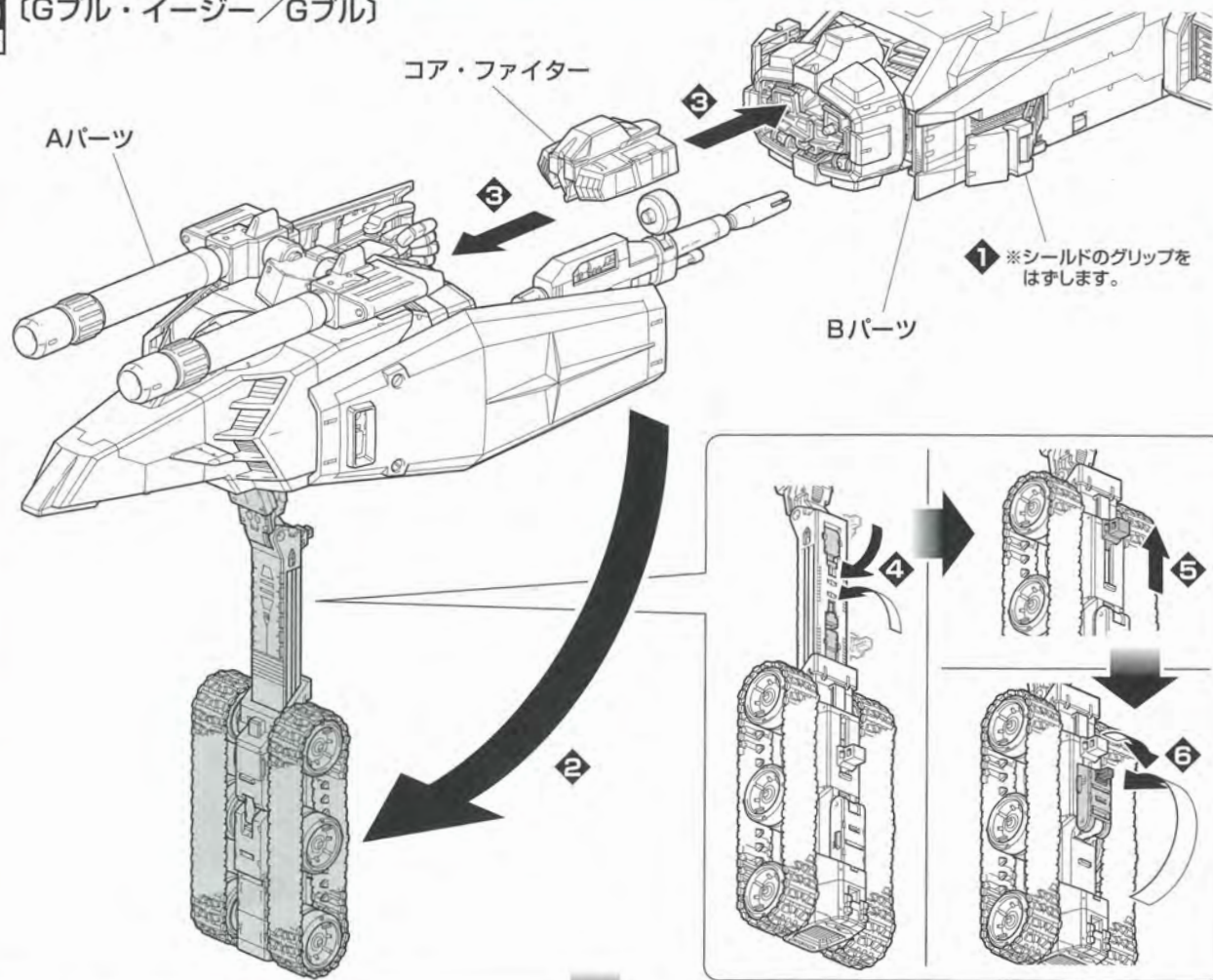
25



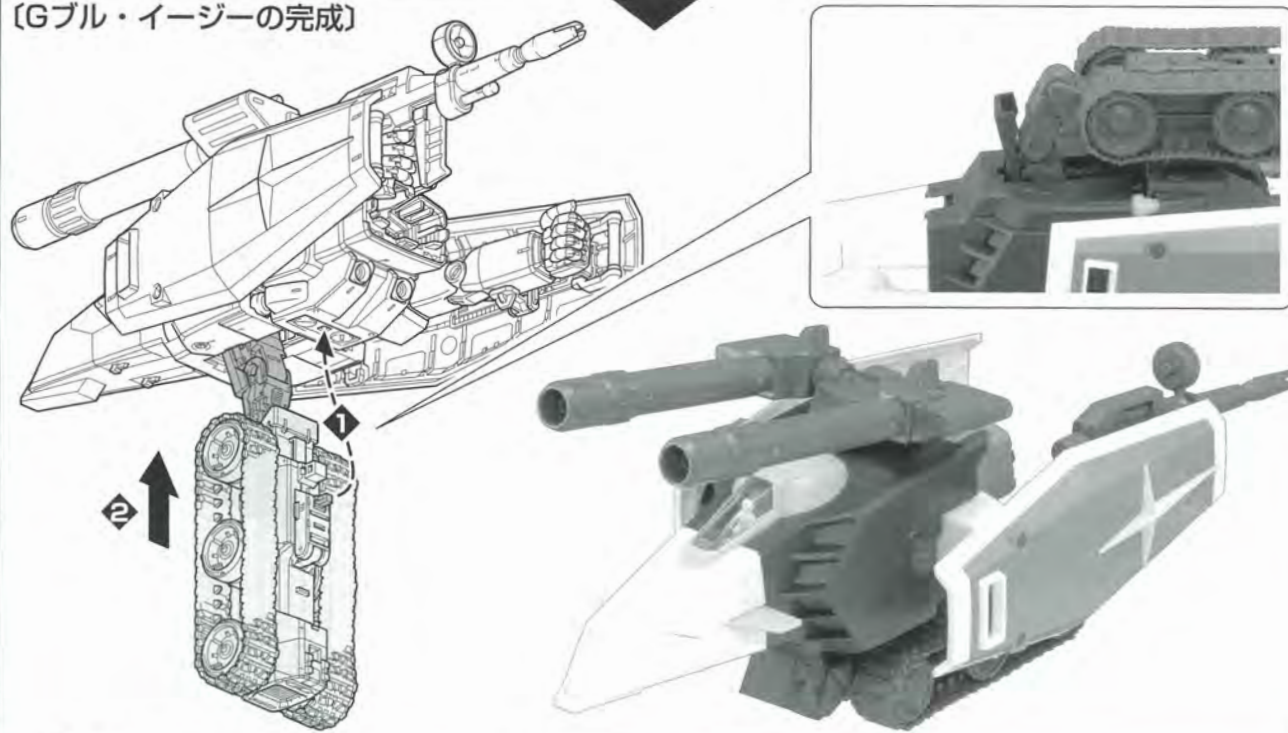




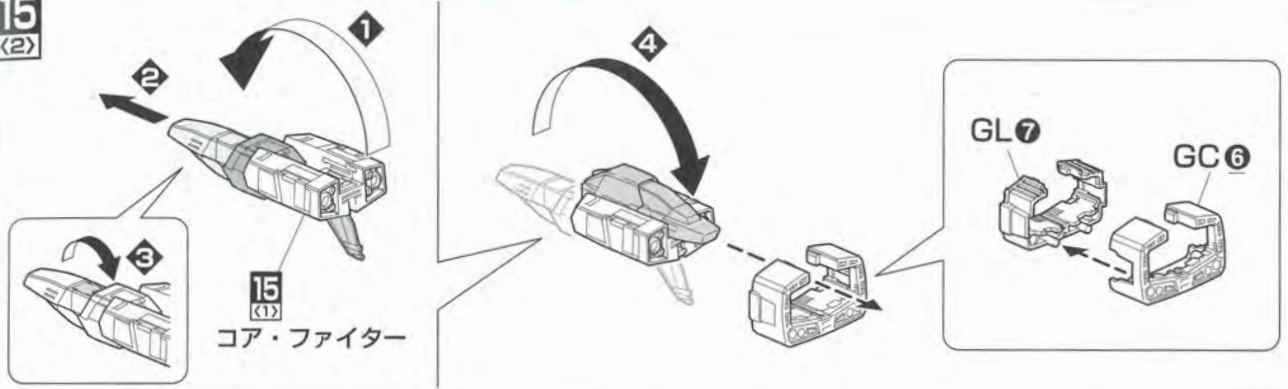
15 (1) [Gブル・イーザー/Gブル]



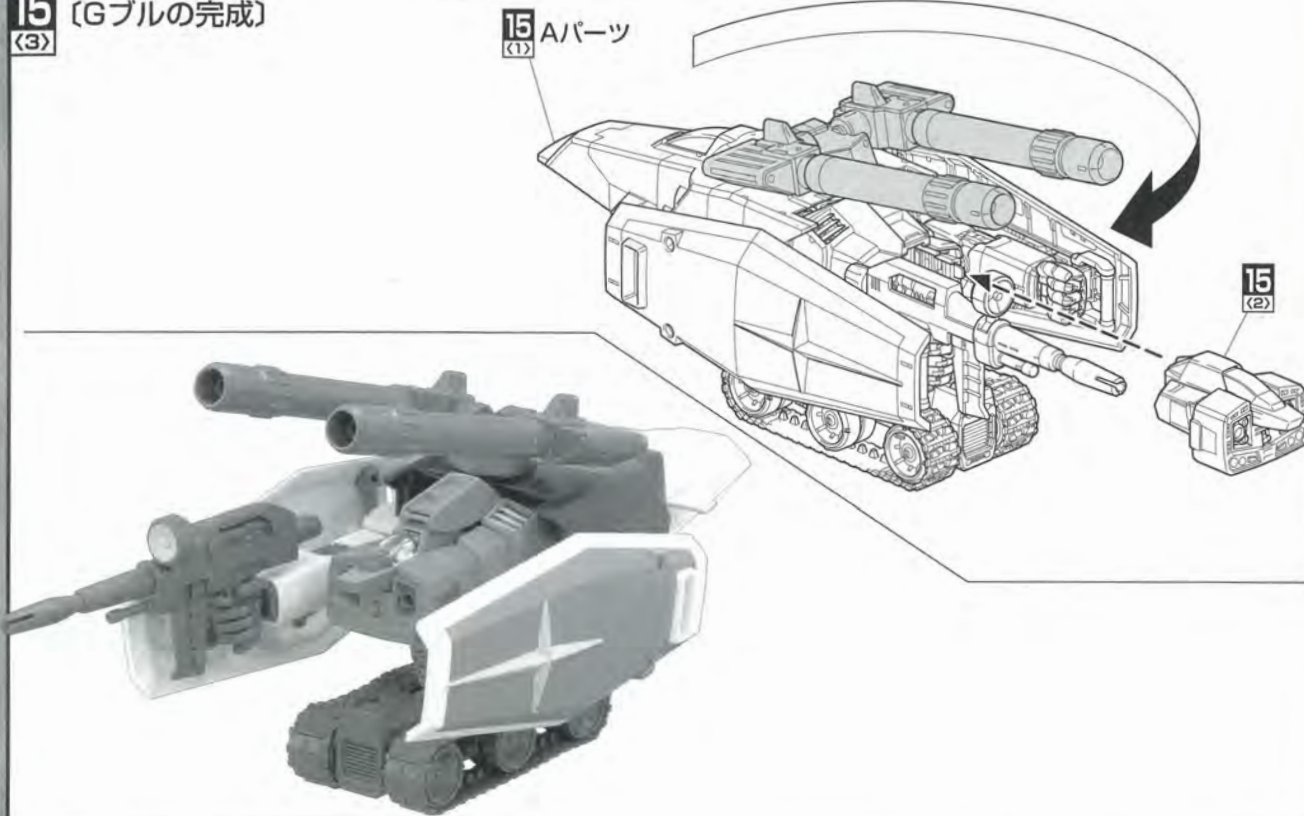
[Gブル・イーザーの完成]



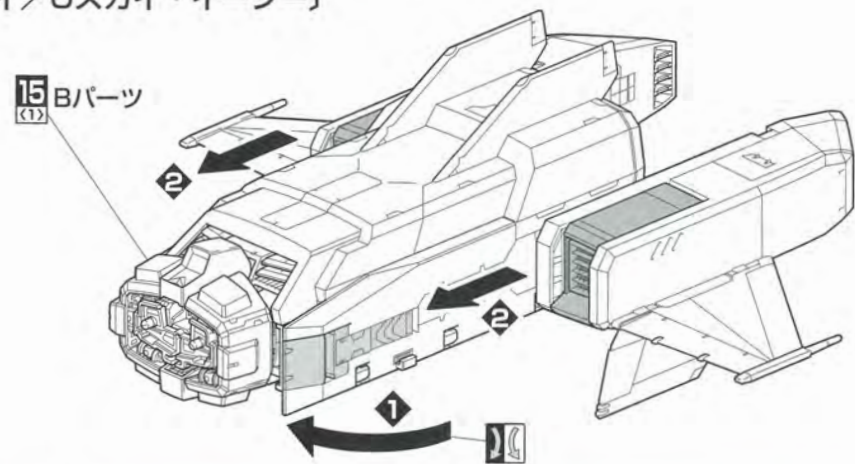
15 (2)



15 (3) [Gブルの完成]



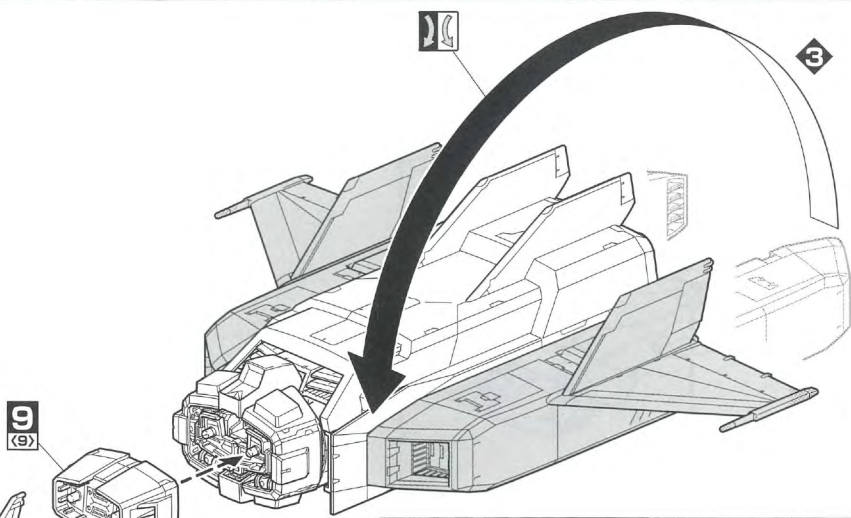
16 (1) [Gスカイ/Gスカイ・イーザー]



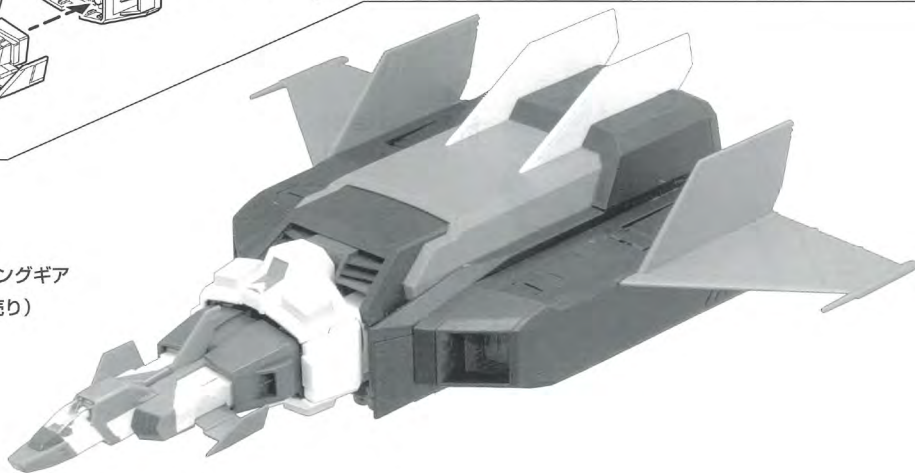


**16** (Gスカイの完成)  
(2)

**15** コア・ファイター  
(1)  
※飛行形態にしてください。



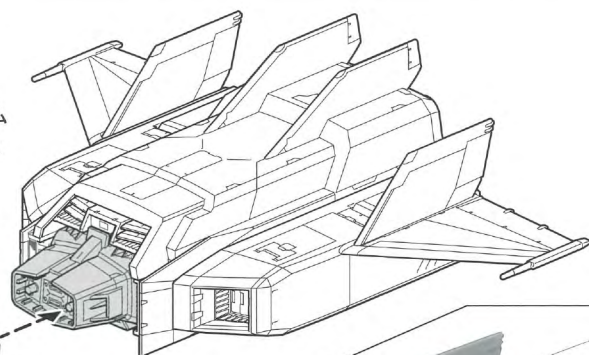
※P19の **8** (4) を参考にランディングギア  
又はアクションベース1 (別売り)  
を取り付ける事ができます。



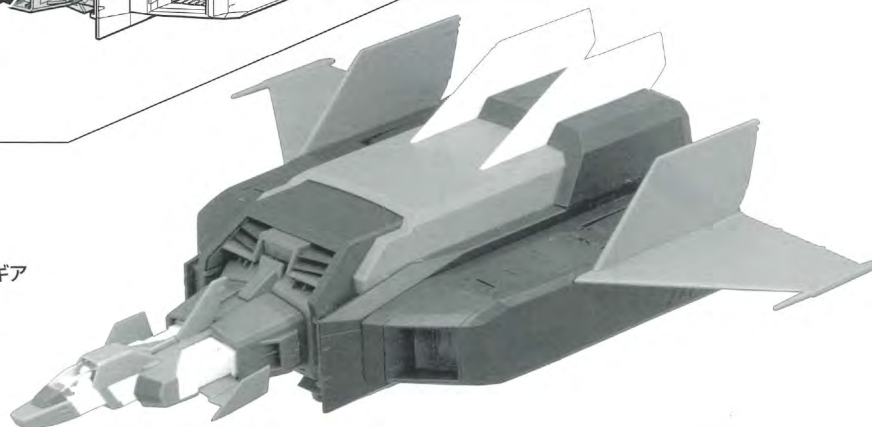
**16** (Gスカイ・イーザー)  
(3)

※Gスカイ・イーザーに換装する場合は、  
P22~23の **12** (1)・**12** (2) を参考にガンダム  
のBパーツをGファイターのエンジンに  
載せ替えてください。

**15** コア・ファイター  
(1)  
※飛行形態にしてください。

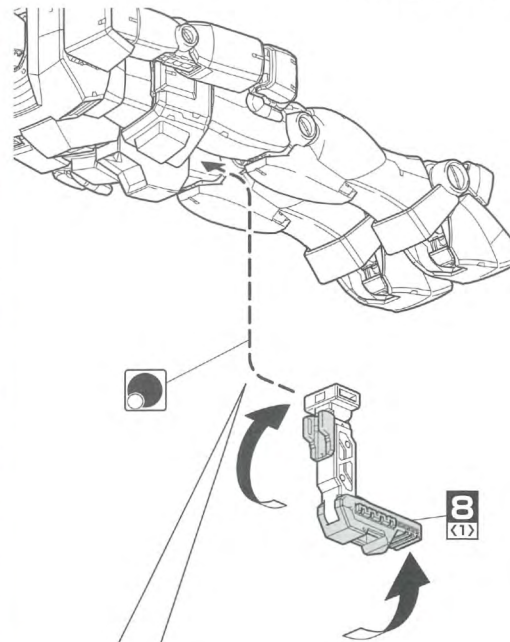


※P19の **8** (4) を参考にランディングギア  
又はアクションベース1 (別売り)  
を取り付ける事ができます。

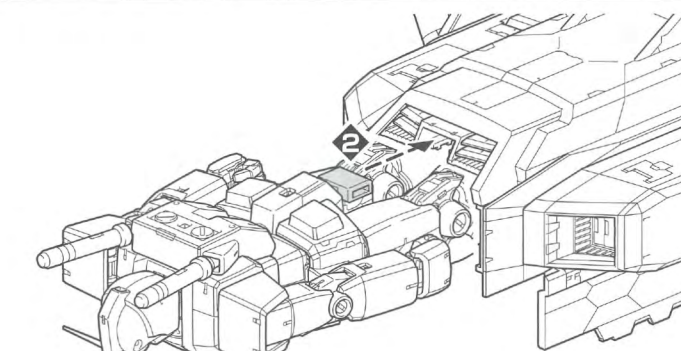


**17** (ガンダム高機動型)  
(1)

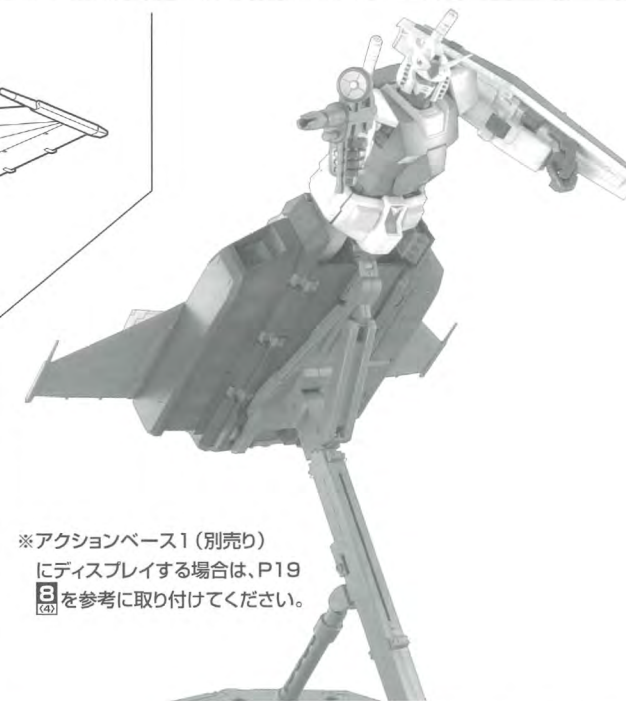
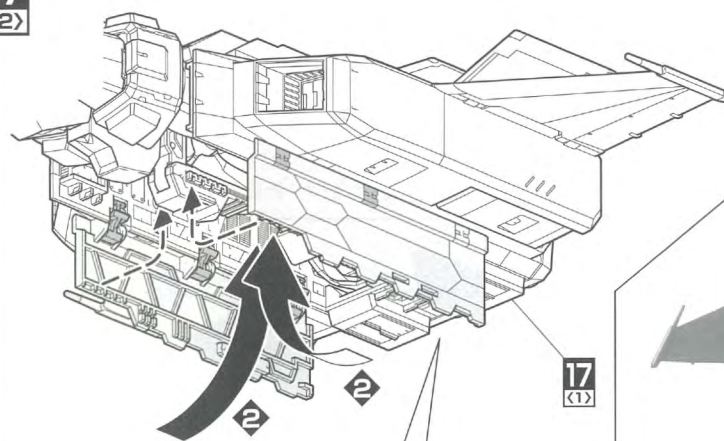
※GファイターをP15の **7**・**8** (1) の状態に戻して  
から変形させます。



※P18の **8** (2)・P19 **8** (4) の台座に取り付け  
ない時に使用したGI **6**。 ※台座に取り付け  
ない時に使用してください。



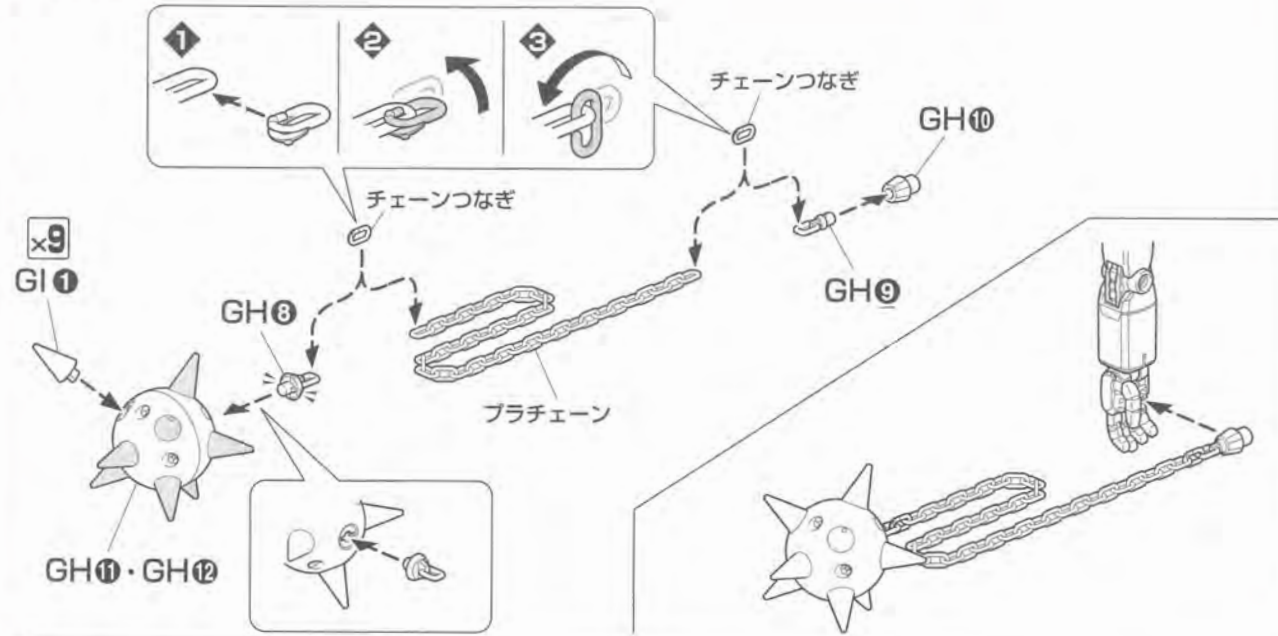
**17** (2)



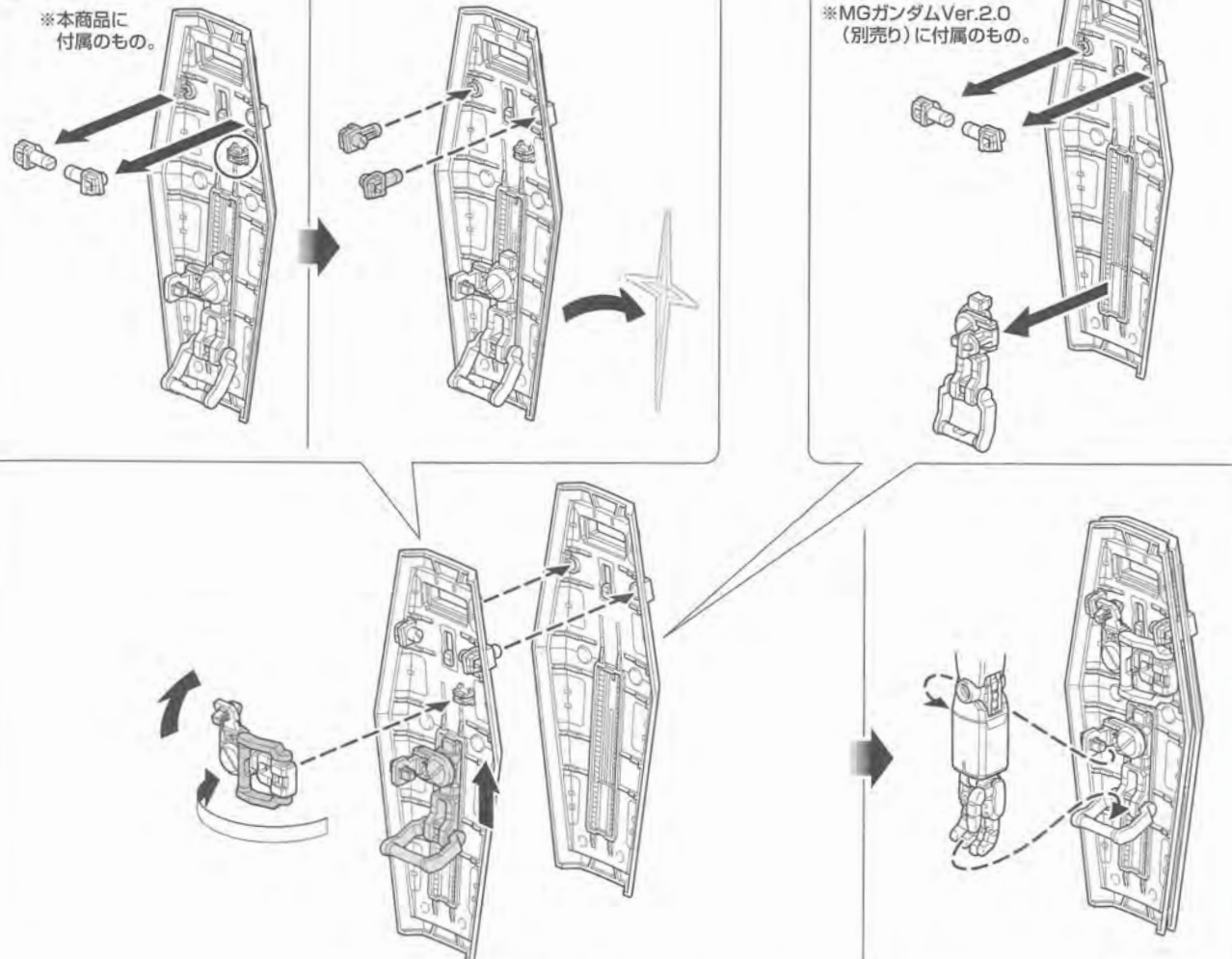
※アクションベース1 (別売り)  
にディスプレイする場合は、P19  
**8** (4) を参考に取り付けてください。



18 (ハイパー・ハンマー)



19 (左シールド)



Seal

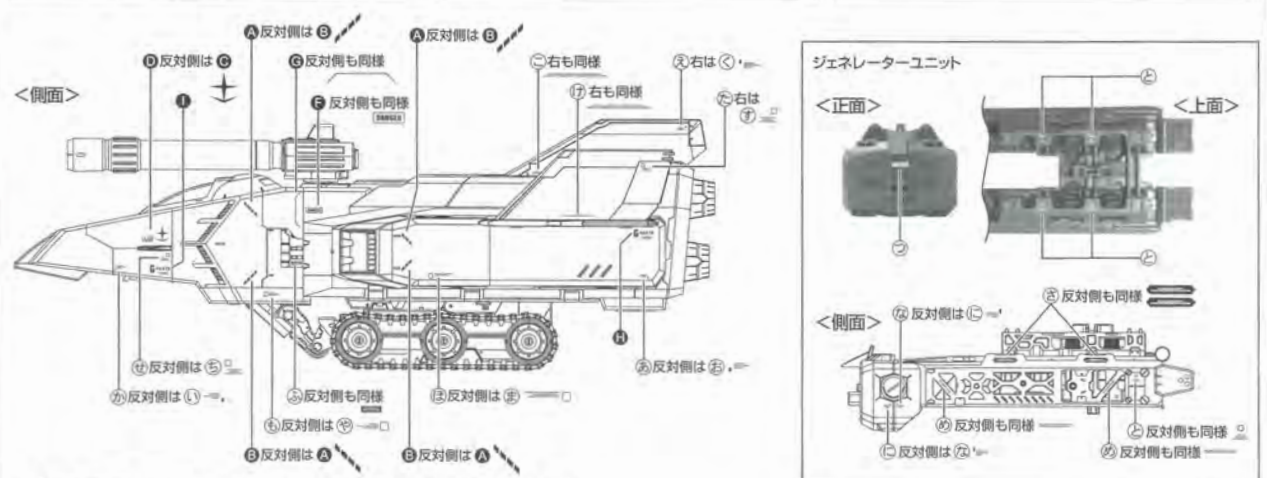
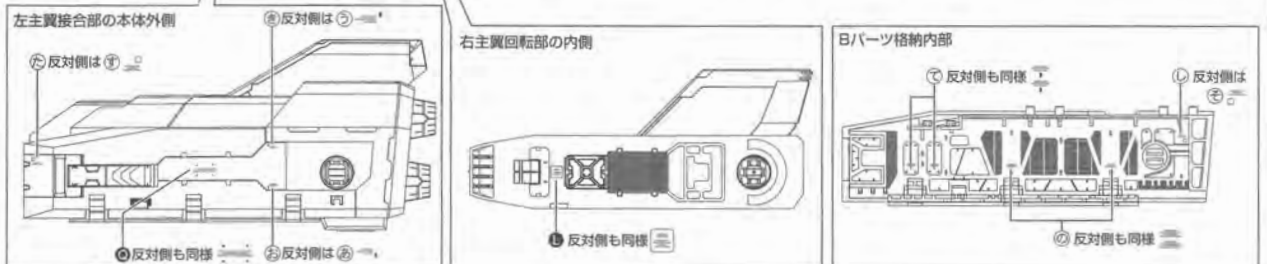
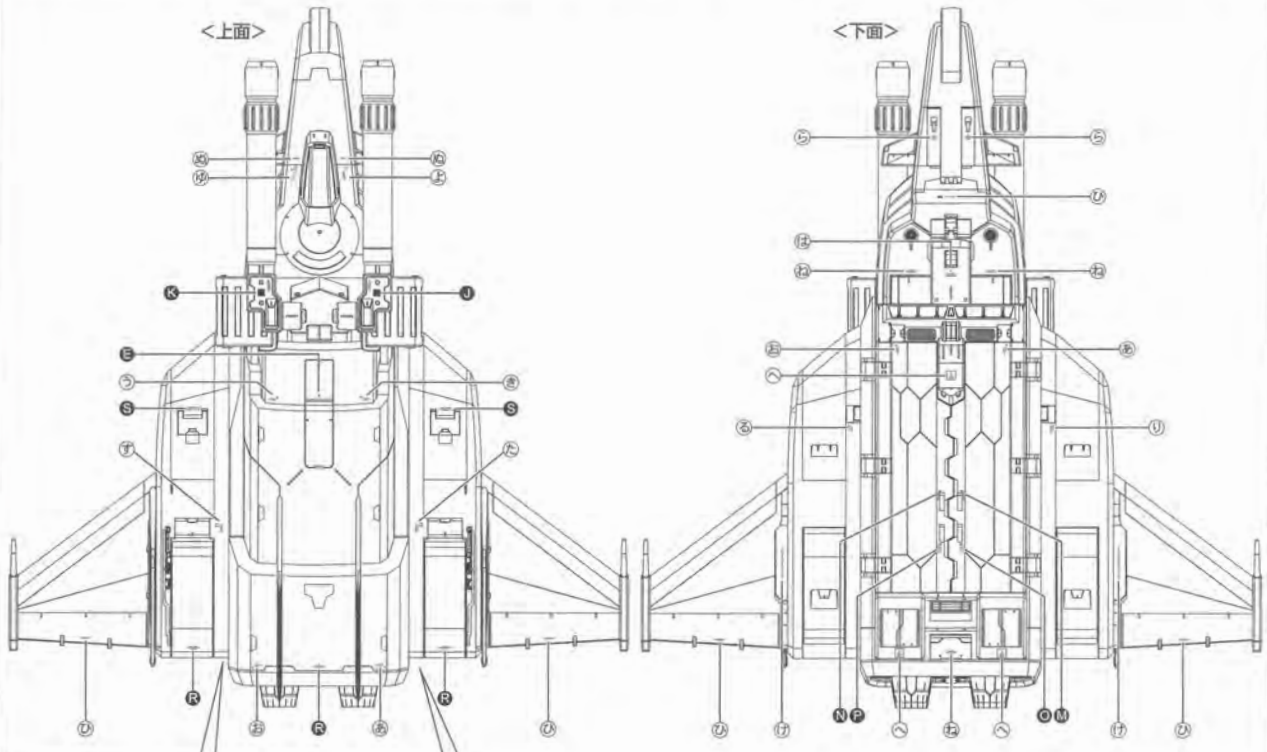
<シール> 下の図を見て、マーキングシールやガンダムデカールの貼る位置を確認してください。

マーキングシールは「ひらがなの黒文字」、ガンダムデカールは「アルファベットの白文字」で表記してあります。  
 【例】㊸・・・マーキングシール ㊸・・・ガンダムデカール

【ガンダムデカールの貼りかた】

1. 転写するマークを大きめに切り取ります。
2. 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
3. シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすり取ります。

このマーキングシール及びガンダムデカールはプラモデルオリジナルのもので、貼り指示は一例ですのでイメージに合わせてお貼りください。



※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所に貼って下さい。